

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第 17 号

2023・2024 年度合併版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所



## 目 次

はじめに .....	1
<b>I 学術研究の交流</b>	
<b>【2023 年度】</b>	
I - 1 第 20 回日中国際学術セミナーの開催 .....	3
I - 2 第 20 回日中国際学術セミナーに係るエクスカージョンの実施 .....	7
I - 3 さくらサイエンスプログラムによる西北農林科技大学訪問団の受入 .....	9
I - 4 中国西南大学との共同研究スタートアップセミナーの開催 .....	11
I - 5 中国人民大学経済学院国際シンポジウムにおける関副所長の講演 .....	11
I - 6 第十回車河国際有機農業フォーラムにおける保母顧問の講演 .....	13
<b>【2024 年度】</b>	
I - 7 第 21 回日中国際学術セミナーの開催 .....	14
I - 8 第 4 回六次産業化国際フォーラムの開催 .....	20
I - 9 韓国農村邑面自治研修団の受入 .....	23
<b>II 日中学術共同調査と共同研究等の成果</b>	
II - 1 日中両国における学術共同調査研究 .....	25
<b>【2023 年度】</b>	
II - 1 - 1 中国人民大学との日中共同研究に係る 邑南町調査の実施 .....	25
<b>【2024 年度】</b>	
II - 1 - 2 西北農林科技大学における協議・調査の実施 .....	26
II - 1 - 3 安康学院における協議・調査の実施 .....	27
II - 1 - 4 安康学院余校長ら一行による島根大学訪問と現地視察 .....	29
II - 2 研究費の獲得 .....	31
II - 3 著書・論文等 .....	31
<b>III 2023・2024 年度研究所活動の記録</b>	
III - 1 研究交流活動	
III - 1 - 1 国際共同研究所第 5 次基本合意書の締結 .....	43
III - 1 - 2 研究所運営に関する協議等 .....	43
III - 1 - 3 客員研究員による研究報告会の開催 .....	44
III - 1 - 4 寧夏・銀川連絡会の開催 .....	45

Ⅲ - 2	2023・2024年度その他の交流記録	
Ⅲ - 2 - 1	中国サロンの実施.....	54
Ⅲ - 3	留学生招致に係る活動	
Ⅲ - 3 - 1	指定校推薦留学制度説明会の実施.....	55
Ⅲ - 3 - 2	留学支援.....	55
Ⅲ - 4	資料・情報の提供	
Ⅲ - 4 - 1	翻訳、資料収集と提供.....	55
Ⅳ	研究所の組織	
	2023年度 運営体制・兼任研究員名簿・客員研究員名簿.....	56
	2024年度 運営体制・兼任研究員名簿・客員研究員名簿.....	58
Ⅴ	資料その他	
Ⅴ - 1	国際共同研究所ホームページ・トピックス.....	60
	2023年度ホームページ・トピックス.....	60
	2024年度ホームページ・トピックス.....	61
Ⅴ - 2	新聞記事.....	62
Ⅴ - 3	事業計画.....	64
Ⅴ - 3 - 1	2023年度事業計画.....	64
Ⅴ - 3 - 2	2024年度事業計画.....	66
Ⅴ - 4	第5次基本合意書.....	68

## はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報第 17 号は、2023 年度および 2024 年度の 2 年分の活動について報告することとなりました。

2023 年度は島根大学・寧夏大学国際共同研究所第 4 次基本合意書の最終年度であり、2024 年 6 月に第 5 次基本合意書が島根大学長と寧夏大学校長の署名により締結されました。第 5 次基本合意書では研究課題として、以下の 4 項目を掲げています。

1. SDGs に関する課題解決に向けた学際的研究
2. 既存産業のグリーン化を目指した技術・政策に関する研究
3. 条件不利地域における環境保全と地域発展の両立に関する人文社会、自然科学および学際的研究
4. 言語学ならびに文学等の分野を含む日中両国に関する国際地域研究

上記の項目 1 は第 4 次基本合意書にも記載されておりますが、コロナ禍のため相互訪問による対面協議、学術セミナーの開催が不可能であり、充分達成できませんでした。『島根大学ビジョン 2021』に記載されている様に、本学の全ての教育研究組織が SDGs の達成に貢献することが求められております。島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、寧夏大学との共同を更に拡張し、西部学術ネットワーク参画大学との連携によって SDGs 2, 3, 4, 9, 10, 11, 12, 13 および 17 の達成に資するための日中間の学際的研究を目標としての研究活動を継続しております。

島根県と寧夏回族自治区交流 30 周年記念事業として 2023 年に研究所が発案した 5 大学（島根大学、島根県立大学、寧夏大学、寧夏医科大学、北方民族大学）との連携協定締結、2023 年度の JST さくらサイエンス事業による西北農林科技大学経済管理学院大学院生受け入れ、2024 年 12 月に 5 年ぶりに対面によって寧夏大学で開催された第 21 回日中国際学術セミナー出席、陝西省安康学院との学術交流締結を目標とした相互訪問等、対面によって多くの活動を行ってまいりましたので第 17 号で報告申し上げます。

2025 年 8 月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

日本側所長 一戸俊義



# I 学術研究の交流

【2023 年度】

## I - 1 第 20 回日中国際学術セミナーの開催

2023 年 11 月 12～13 日、第 20 回日中国際学術セミナーを島根県松江市で開催した。本セミナーは、島根大学と寧夏大学の共催により、毎年日中交互に開催しているものである。

今回は、全体テーマを『日中の食料生産技術の進展』とし、現代の日本、中国が直面している食料自給率の向上と維持、および食の安全性を確保した上での「持続可能な食料生産」を取り巻く課題について、技術面での対応、社会経済面からの分析を中心に報告がなされた。2 日間でのべ約 110 名（1 日目対面約 40 名、オンライン約 20 名、2 日目対面約 40 名、オンライン約 10 名）が参加した。

12 日（日）は、島根県民会館 303 会議室を会場に、開会式と基調報告を行った。開会式では、島根大学 大谷浩 理事（研究推進、グローバル化推進担当）による歓迎の挨拶に次いで、寧夏大学の趙曉佳副校長から挨拶があった後、「‘島根-寧夏’五大学連携」と称して、島根大学、島根県立大学、寧夏大学、寧夏医科大学、北方民族大学の担当理事・副校長からのビデオメッセージを放映した。その後の基調報告では、日本側からは、「安全で美味しい島根の県産品認証制度（島根県版 GAP）の取り組み」と題して、島根県農林水産部産地支援課美味しまね・GAP スタッフの武田昌司管理監と大西まどか主任より「美味しまね」認証制度の概要と手続きの方法、波及効果等についてご報告いただいた。また、中国側からは、「中国における食糧生産効率評価」と題して、寧夏大学経済管理学院の楊国涛学院長よりご報告いただいた。

13 日（月）は、会場を島根大学に移し、全 12 題の個別報告が行われた。海外からは、中国人民大学と西北農林科技大学の関係者ら 7 名が来日して報告したのに加え、寧夏大学から 3 名がオンラインで参加した。

今回のセミナーは、4 年ぶりに対面会場を設けて開催された。その結果、外部の方々や学生を含めた多くの方に参加してもらうことができたとともに、今後の国際共同研究の発展につながる成果を得ることができ、参加者相互の交流を深める機会となった。

○写真





1日目 会場の様子



大谷理事による挨拶



2日目 個別報告の様子

○セミナー概要

名 称：第20回日中国際学術セミナー

メインテーマ：「日中の食糧生産技術の進展」

日 時：2023年11月12日（日）～13日（月）

実施方法：対面、オンラインミーティングツール zoom

会 場：島根県民会館、島根大学（島根県松江市）

主 催：島根大学、寧夏大学

実施主体：島根大学・寧夏大学国際共同研究所

○プログラム

【11月12日（日）14:00-16:40】開会式および基調報告（会場：島根県民会館 303 会議室）

13:30 開場

14:00-14:15 開会式（司会：島根大学生物資源科学部教授 一戸 俊義）

開会

島根大学側歓迎挨拶（島根大学グローバル化推進担当理事 大谷 浩）

寧夏大学側挨拶（寧夏大学副校長 趙 曉佳）

14:15-14:55

島根-寧夏 五大学間連携 趣旨説明（一戸 俊義、10分）

参加五大学によるビデオメッセージ放映（30分）

島根大学 / 島根県立大学 / 寧夏大学 / 寧夏医科大学 / 北方民族大学

14:55-15:10 休憩

15:10-15:50 日本側基調報告 「安全で美味しい島根の県産品認証制度(島根県版 GAP)の  
取り組み」

島根県農林水産部産地支援課 美味しまね・GAP スタッフ管理監 武田 昌司

主任 大西 まどか

15:50-16:00 休憩

16:00-16:40 中国側基調報告 「中国における食糧生産効率評価」

寧夏大学経済管理学院 学院長、教授 楊 国涛 ※オンライン報告

【11月13日（月）10:00-16:00】分科会・個別報告

（会場：島根大学松江キャンパス 学生会館集会室）

9:30 開場

10:00-11:30【分科会① 園芸、栽培】（座長：一戸 俊義 島根大学生物資源科学部、教授）

時 間	演 者	タイトル
10:00-10:30	足立 文彦 島根大学生物資源科学部、助教	高温条件がサツマイモに及ぼす影響と中標高地帯栽培による食感品質の改善
10:30-11:00	江角 智也 島根大学生物資源科学部、教授	あんぼ柿の加工時に廃棄される柿皮を用いたシイタケの菌床栽培
11:00-11:30	王 彬 寧夏大学農学院、副教授	アルカリ性土壌のトウモロコシ栽培区における土壌改良物の違いが微生物環境と産量に与える影響 ※オンライン報告

10:00-12:00【分科会② 農業経済、環境経済】(座長：関 耕平、島根大学法文学部、教授)

時 間	演 者	タイトル
10:00-10:30	胡 霞 中国人民大学经济学院、教授 劉 曉君 中国人民大学经济学院、大学院生	六次産業化における農村振興主体の役割に関する分析 ——中国浙江省何斯路村を例に
10:30-11:00	高 小西 鳥取大学連合農学研究科、大学院生	Characteristics of Farmland Transfer in San'in Region, Japan
11:00-11:30	陳 曉楠 西北農林科技大学経済管理学院、副教授	黄河流域における「水-エネルギー-食糧-生態」の関連生態リスク識別と優化管理
11:30-12:00	大津 裕貴 ダムの見える牧場、職員	日本における環境酪農勘定の試作

12:00-14:00 昼休憩

14:00-15:00 【分科会③ 畜産】(座長：一戸 俊義、島根大学生物資源科学部、教授)

時 間	演 者	タイトル
14:00-14:30	一戸 俊義 島根大学生物資源科学部、教授	非食用海藻を用いた反芻家畜のメタン生産低減の検討
14:30-15:00	徐 曉鋒 寧夏大学動物科技学院、副院長、教授	Study on Changes of Rumen Fermentation Parameters and Microbial Diversity in Weaning Calves ※オンライン報告

14:00-15:30【分科会④ 貧困対策、住民福祉】(座長：関 耕平、島根大学法文学部、教授)

時 間	演 者	タイトル
14:00-14:30	蔵 志勇 寧夏大学外国語学院、副教授	寧夏西海固地域における絶対的貧困撲滅対策に関する研究 ※オンライン報告
14:30-15:00	張 麗霞 西北農林科技大学経済管理学院 大学院生	食品アクセスビリティが中国農村住民の栄養健康状態に与える影響
15:00-15:30	李 婉 鳥取大学連合農学研究科、大学院生	樹木認知に関するテキストマイニング分析

15:30-15:40 休憩

15:40-15:55 総括 (島根大学生物資源科学部教授 一戸 俊義)

15:55-16:00 閉会あいさつ

## I - 2 第 20 回日中国際学術セミナーに係るエクスカージョンの実施

2023年11月14日（火）、第20回日中国際学術セミナーの一環として、エクスカージョンを行った。今回は、樟舎（雲南市木次町）の面代代表にコーディネートをお願いし、出雲・雲南地域を中心に、食料生産技術を持続可能性や社会関係の中で実践的に位置づけている現場を訪問した。参加者は各訪問先で熱心に質疑を行っており、日本のマイクロファームの視察を通して、安全で持続可能な農業・産業の在り方や自然との共存という観念に触れ、中国の農村振興への示唆を得たとの声をいただいた。

### ○エクスカージョン概要

実施日時：2023年11月14日（火）9:00-17:30

訪問先、内容：

- ① 島根県立ふるさと森林公園学習展示館 概要説明
- ② Good Life Farm 農場 気候風土に合わせたマイクロファームの経営と技術
- ③ café A. oryzae Good Life Farm の野菜等を使った食事
- ④ 旭日酒造 蔵の見学、微生物を利用した醸造工程の説明
- ⑤ 峯寺遊山荘 ニホンミツバチと森づくりの関わり、巣の諸形態

参加者数：10名（来日4名、国内6名）

行程概略：島根大学松江キャンパス発着、松江市宍道町、出雲市斐川町、雲南市木次町、出雲市今市町、雲南市三刀屋町。全行程約126km。

### ○写真



面代氏によるルート説明



Good Life Farm 青野氏との質疑応答



Good Life Farm



旭日酒造



日本ミツバチの巣箱



峯寺遊山荘にて

### I - 3 さくらサイエンスプログラムによる西北農林科技大学訪問団の受入

2024年1月21日（日）～28日（日）、科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプログラムにより、西部学術ネットワーク参加校である西北農林科技大学経済管理学院の大学院生9名と教員1名を受け入れ、研修を行った。

今回は、テーマを「農山村における資源循環型社会の形成－資源利用の高度化と地域の持続可能性－」とし、学内での特別講義の実施の他、島根県内で有機農業や地域資源の活用・循環に取り組む地域・企業への視察を行った。主な視察内容は以下の通り。

#### ①有機農業生産による高付加価値化と生態系保全の両立を実現する農村経営モデルと農村の多面的機能

- ・島根大学本庄農場における施設見学と安心・安全な水稻栽培技術、有機肥料の施用実態の実地レクチャ。
- ・仁多たい肥センターにおける肉用牛飼養農家からの排泄物受け入れ、スクリーンジェクター一式攪拌と切り返しによる高品位たい肥生産過程の視察。
- ・株式会社吉田ふるさと村における安心・安全な有機農産物の生産・加工による六次産業化と高付加価値化の実現、地域ブランド形成についてのレクチャ。
- ・農家民泊を通じた、農産物生産に留まらない農村の多面的機能（コミュニティ機能、文化伝承機能等）の体験。

#### ②耕畜連携による地域資源の利用実態とその効果

- ・「日本農業賞」の「個別経営の部」大賞など、耕畜連携についての取り組みが高く評価されている株式会社ライスフィールドにおける実地調査。
- ・邑南町農家・長谷川敏郎氏による有畜複合の有機米生産等、アグロエコロジーの実践の視察。

27日（土）に実施した総括会議では、参加した学生一人一人が報告を行い、印象に残った内容について、中国の現状との比較や今後の研究に対する示唆等について述べた。引率教員である陳曉楠副教授からは、「島根県内の農村で実践されている資源循環型社会を目指した取り組みについて知見を深めることができ、今後の研究にとって有意義な研修だった。また、島根大学のSDGsに対する取り組みにも深く感銘を受けた」と高い評価をいただいた。

今回の研修をきっかけとして、西北農林科技大学との交流がさらに深まることが期待される。

○写真



集合写真



一戸所長によるレクチャ



島根大学附属農場



仁多たい肥センター



ライスフィールド有限公司



邑南町長谷川氏によるレクチャ

#### I - 4 中国西南大学との共同研究スタートアップセミナーの開催

2023年6月8日（木）、中国西南大学の田阡教授と、共同研究のスタートアップセミナーをオンラインで行った。このスタートアップセミナーは、今年度日立財団「倉田奨励金」の助成を受けて実施する共同研究「人口再生産力とコミュニティ機能に関する日中比較」に係るもので、今後の方向性を確認し、実際の進め方について協議する目的で開催した。

セミナーでは、まず当研究所の関副所長が、すでに日本側で実施した岡山県奈義町での調査について説明し、日本側の今後の調査方針について考えを共有した後、中国の状況について意見交換するとともに、中国側の調査地について検討した。

今後、日中で協力しながら高出生率地域での調査を進め、年度末までに日本でセミナーを開催し、成果を発表する予定である。

#### ○写真



#### I - 5 中国人民大学経済学院国際シンポジウムにおける関副所長の講演

2023年4月22日（土）、中国人民大学経済学院主催のシンポジウムが開催され、本研究所の関副所長が報告した。この研究シンポジウムは日中国交正常化50周年を記念して中国人民大学が主催したもので、日本からは島根大学のほか、一橋大学、九州大学、早稲田大学が参加した。中国人民大学は、本研究所が事務局を務める「西部学術ネットワーク」に参加する大学であり、同大学の胡霞教授が島根大学に留学していたという縁がある。

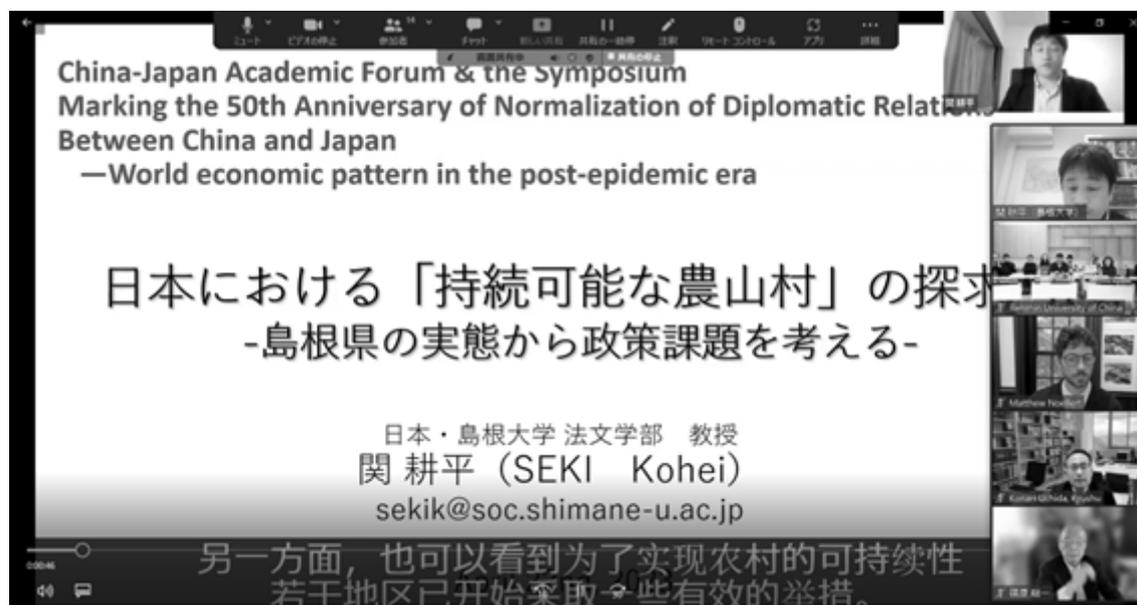
中国人民大学経済学院 劉学院長の開会あいさつの後、各参加大学の学部長からあいさつがあり、本学からは、法文学部の丸橋学部長が中国語を交えてあいさつを行った。続いて、各大学からコロナ後の世界経済の趨勢をテーマとした報告が行われ、本研究所の関副所長は、「日本における『持続可能な農村』の探求—島根県の実態から政策課題を考える」と題し、コロナ後にその価値が再評価されている農山村について、日本の厳しい実態や、それで

も現場で展開されているアグロエコロジーについての先進的取り組みについて報告し、今後の国際共同研究が求められているテーマについて問題提起した。

### ○写真



丸橋学部長によるあいさつ



関副所長による報告の様子

## I - 6 第十回車河国際有機農業フォーラムにおける保母顧問の講演

2023年8月19日、中国山西省にて第十回車河国際有機農業フォーラムが開催され、本研究所の保母顧問が参加し、ビデオ講演を行った。

車河国際有機農業フォーラムは、山西省大同市人民政府、中国農業大学、太原理工大学、山西農業大学の共同主催により2014年から開催されているもので、保母顧問は、第一回目のフォーラムから学術委員会主席を務めている。

保母顧問は、「食料生産目標における質と量—日本の失敗からの教訓—」というタイトルで講演を行い、日本における有機農業の取組の発展過程と、有機農業に関する政策の変遷について紹介した。保母顧問は、農業政策には人権擁護の観点が必要だと述べ、食の安全は国民の生活と健康に直結するという意識をもって、世界的な協力体制の中で諸課題を解決していくことの重要性を強調するとともに、食料の質を高めるためにも、国際的な連携を強める必要があると述べた。

今回のフォーラムは、「有機農業による美しい郷村づくり」をメインテーマとして、山西省靈丘県を会場に研究報告や討論会が行われ、中国国内外から約100名が参加した。

### ○写真



## 【2024 年度】

### I - 7 第 21 回日中国際学術セミナーの開催

2024 年 12 月 7 日（土）～8 日（日）、第 21 回中日国際学術セミナーが中国・寧夏大学で開催され、本学から、一戸所長、関副所長他、計 5 名が参加した。本セミナーは、島根大学と寧夏大学の共催により毎年日中交互に開催しているもので、今回は、全体テーマを『中日両国における特質産業の現代化と発展』とし、持続可能な発展、伝統産業のグリーン転換、人材育成、社会サービス等の分野に関わる課題を中心に報告が行われた。

7 日（土）に行われた開幕式では、寧夏大学 張桓共産党委員会副書記による歓迎の挨拶に次いで、本学の一戸所長が挨拶を行った。一戸所長は、今回のセミナーテーマである「特質産業の発展」が極めて広範囲の産業融合としての六次産業化を視野に入れたものであることに触れ、「六次産業化理論は中国で独自の発展を遂げ、事例も豊富である。今回のセミナーを通じて、中国の取り組みから多くを学びたい」と述べた。

その後の基調報告では、寧夏大学経済管理学院の楊国涛学院長による「食糧-エネルギー-農業のシステム効率評価」と、関西大学商学部の小井川広志教授（本研究所客員研究員）による「マレーシアにおけるパーム油産業バリューチェーンの発展-寧夏・枸杞産業への教訓-」の 2 本が報告された。午後の分科会では、会場を 3 つに分け、全 15 題の個別報告が行われ、本学および寧夏大学の教員・学生の他、中国人民大学、西北大学、新疆ハミ市畜牧工作站の研究者が参加した。

8 日（土）は、エクスカージョンとして、銀川市賀蘭県の百瑞源徳勝クコ博物館と同永寧県の閩寧新貌展示センターを視察し、寧夏の特質産業であるクコ産業における六次産業化を含めた産業発展の状況と、生態移民村の経済発展の概要について理解を深めた。

今回、本学の教職員が 5 年ぶりに寧夏大学を訪問し、対面での交流を行うことができた。セミナーにおける交流以外にも、今後の共同研究について掘り下げて協議する時間を持てたことから、共同研究のシーズを複数得ることができ、直接交流の重要性を実感した訪問となった。

#### ○セミナー概要

名 称：第 21 回日中国際学術セミナー

メインテーマ：「中日両国における特質産業の現代化と発展」

日 時：2024 年 12 月 7 日（土）～8 日（日）

会 場：中国・寧夏大学（寧夏回族自治区銀川市）

主 催：寧夏大学、島根大学

実施主体：寧夏大学・島根大学国際共同研究所、寧夏大学外国語学院

○プログラム

詳細プログラムはこちらから

[https://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/news/news\\_pdf/21thseminarpamphlet.pdf](https://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/news/news_pdf/21thseminarpamphlet.pdf)

12月7日(土)午前 セミナー開幕式				
司会: 寧夏大学・島根大学国際共同研究所中国側所長 劉艷暉教授 通訳: 王穎				
会場: 寧夏大学賀蘭山校区文賀楼 4階報告庁				
時間	内 容			
8:30	寧夏大学側 歓迎のあいさつ 寧夏大学共産党委員会 張桓 副書記 通訳: 蔵志勇			
8:50	島根大学側 あいさつ 国際共同研究所日本側所長 一戸俊義教授 通訳: 田中奈緒美			
9:10	記念撮影			
主題報告				
時間	報告者	所属	職名	報告タイトル
9:40	楊国涛	寧夏大学 経済管理学院	学院長 教授	粮食—能源—农业系统效率评价 食糧—エネルギー—農業システムの効率評価(通訳: 王穎)
10:40	小井川広志	関西大学 商学部	教授	マレーシアにおけるパーム油産業バリューチェーンの発展--寧夏・枸杞産業への教訓-- 马来西亚发展棕榈油产业价值链: 对宁夏枸杞产业的启示 (通訳: 田中奈緒美)

**【第一分科会】**

テーマ:「郷村振興と産業革新」				
司会 : 寧夏大学外国語学院 講師 崔沫舒				
会場 : 寧夏大学賀蘭山校区篤行楼 3階 310 教室				
時間	報告者	所属	職名	報告タイトル
14:30	一戸俊義	島根大学 生物資源科学部	所長、 教授	島根県中山間地域の集落営農組織における繁殖和牛飼養現況調査 日本島根县中山间地区的社区农业组织饲养和牛现状调查 (通訳: 許坤)

15:00	胡霞	中国人民大学 经济学院	教授	中日两国乡村可持续发展的国际比较—基于盘活村级资源视角 中日両国における郷村の持続可能な発展に関する国際比較- 村資源の活用という視点から-
15:30	東梅	寧夏大学 経済管理学院	教授	基于 CGE 模型的宁夏“三生融合”水资源政策模拟研究 CGE モデルに基づく寧夏の「三生融合」水資源政策のシミュレ- ーション研究 (通訳:崔沫舒)
16:00	許坤	新疆哈密市 畜牧工作拠点	助理 畜牧師	複合プロバイオティクス製剤が肥育牛の成長成績、腸内細菌 叢および血清生化学的指標に及ぼす影響 复合益生菌制剂对育肥牛生长性能、肠道菌群、血清生化指 标的影响
16:30	段力文	寧夏大学 農学院	修士課 程学生	郷村文化産業と西吉県の郷村振興の融合発展 乡村文化产业与西吉县乡村振兴融合发展研究 (通訳:崔沫舒)
16:40	閉幕式 総括:寧夏大学外国語学院副院長 金忠傑教授 通訳:崔沫舒			

## 【第二分科会】

テーマ:「地域発展と政策」				
司会:寧夏大学外国語学院 教授 藏志勇				
会場 :寧夏大学賀蘭山校区篤行楼 3 階 311 教室				
時間	報告者	所属	職名	報告タイトル
14:30	楊韶艷	寧夏大学 経済管理学院	教授	中国とアラブ諸国との貿易パターンの時空間的変遷とその影 響要因に関する研究 中国与阿拉伯国家贸易格局时空演变及影响因素研究 (通訳:韓芳)
15:00	関耕平	島根大学 法文学部	副所長 、教授	島根県におけるアグロエコロジー実践の事例分析 島根县的生态农业实际案例分析 (通訳:高楽楽)
15:30	高楽楽	島根大学 法文学部	修士課 程学生	寧夏肉牛産業のブランド化に向けた現状と課題 —安全・安心を基盤とする良好農業認証の推進を切り口とし て— 宁夏肉牛产业面向品牌化发展中的现状与课题—推进以安 全·安心为基础的良好农业认证

16:00	申奥	寧夏大学 農学院	修士課程学生	都市村落の経済・社会発展を促進する都市鉄道輸送対策に関する研究-鄭州市を例として 城市轨道交通促进城中村经济社会发展对策研究—以郑州市为例 (通訳:韓芳)
16:30	趙中灝	寧夏大学 農学院	修士課程学生	寧夏地域における寒冷野菜のための節水型点滴灌漑連携技術 宁夏地区冷凉蔬菜节水滴灌互联技术 (通訳:韓芳)

### 【第三分科会】

テーマ:「文化と社会」				
司会 : 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 研究員 田中奈緒美				
会場 : 寧夏大学賀蘭山校区篤行楼 3 階 312 教室				
時間	報告者	所属	職名	報告タイトル
14:30	伊藤勝久	島根大学	教授	林業投資の地域経済振興効果—森林環境譲与税の用途による検討— 林业投资对地方经济的影响:对森林环境特许权税使用情况的考察 (通訳:高楽楽)
15:00	王鳳	西北大学 経済管理学院	教授	日本の廃棄物循環利用の現状と課題 日本废弃物循环利用的现状与挑战 (通訳:田中奈緒美)
15:30	田中奈緒美	島根大学	研究員	雑談会話の話題移行パターンに関する日中比較 聊天会话中话题转换模式的中日比较
16:00	張玲	寧夏大学 外国語学院	講師	近代訪中日本人旅行記の研究-多角的視点からの文化的考察と時代の痕跡 日本近代访华游记研究—多元视角下的文化映照与时代痕迹
16:30	耿強艷	寧夏大学 経済管理学院	博士課程学生	青海省县域における生態空間的貧困の罣が共同富裕に果たす役割のメカニズムに関する研究 青海省县域生态空间贫困陷阱对共同富裕的作用机理研究 (通訳:張玲)

## 【エクスカーション】

12月8日(日)	
時間	内容
9:00	寧夏大学出発
9:00-9:30	移動
9:30-11:30	徳勝クコ博物館
11:30-14:30	昼食, 移動
14:30-17:30	閩寧新貌展示センター
17:30	移動, 寧夏大学へ
同行者: 金忠傑, 崔沫舒, 李楊	

○写真



集合写真



開幕式の様子



一戸所長あいさつ



張桓副書記あいさつ



個別報告の様子



## I - 8 第4回六次産業化国際フォーラムの開催

2024年11月1日（金）、第4回六次産業化国際フォーラムを島根県松江市で開催した。本フォーラムは、六次産業における生産力の質的向上を目的として、これまで中国・西北農林科技大学や立命館大学において開催してきたもので、今回で4回目となる。

今回は、全体テーマを『生産力の質的向上を目指した六次産業に関する理論と実践』とし、六次産業化の発展と農業等産業との融合に関する理論的・実践的な知識と方法に関する情報共有を目指して、報告と意見交換が行われた。中国からは、西北農林科技大学、復旦大学、北京大学等から42名の研究者・企業関係者が来日し、島根大学、農林中金総合研究所、立命館大学等の日本側参加者と合わせて、約80名が本フォーラムに参加した。

11月1日午前は、開会式と基調報告を行った。開会式では、本学の大谷浩学長が挨拶し、島根大学における六次産業化の実践について触れながら、本フォーラムが、六次産業化をめぐって、日中の研究者が交流し、互いに高め合う貴重な機会になることを期待する旨を述べた。続いて行われた基調報告では、復旦大学六次産業研究院の張来武教授による「エコ農業の6次産業化:6次産業化理論の実践と革新」、および農林中金総合研究所皆川芳嗣理事長による「日本の6次産業化の現状と課題」の2つの報告が行われた。

午後は会場を3つに分け、理論と実践に関する分科会と、企業家フォーラムを行った。分科会では全17題の報告が行われ、活発な議論が行われた。企業家フォーラムは、今回のフォーラムで初めて企画されたもので、農林中金総合研究所 福田仁代表取締役専務、島根県農林水産部産地支援課 青木裕久課長補佐、大根島の農漁業を考える会 柏木利徳設立時代代表、株式会社スペック 小林篤司 CIO、豊農株式会社 鄧烈首席科学家、同 銭永華首席人才官らが参加し、それぞれの事業に関する報告を行うとともに、フロアからの質問を交えた意見交換の場が設けられた。

また、10月30日（水）～31日（木）には、フォーラムに先立ってエクスカージョンが行われ、吉田ふるさと村や島根ワイナリー等、島根県内の六次産業化の優良事案の視察・見学に加えて、鳥取県（陣構茶生産組合、くめざくら大山ブルワリー）と広島県（広島三次ワイナリー、川西郷の駅、福田農場）にも足を延ばして中国地方各地の様々な事例を視察し、見聞を広げた。

### ○概要

フォーラム名称：第4回六次産業化国際フォーラム

全体テーマ：「生産力の質的向上を目指した六次産業に関する理論と実践」

背景と目的：

新たな生産力の急速な発展に伴い、伝統産業と新興技術の融合により、産業構造に大きな変革を与えている。新たな生産力の六次産業の発展に対する応用と将来性を深く探求し、六次産業化理論の革新と実践を深化させ、六次産業の企業家と専門家・研究者とのコミュニケ

ーションの場を構築し、六次産業企業間の交流と協力を促進する。第4回六次産業化国際フォーラムでは、国際六次産業の発展と農業の融合に関する理論的・実践的な知識と方法についての情報を提供することを目指す。

主催等：

主 催：西北農林科技大学、島根大学

実 施：西北農林科技大学六次産業研究院、  
島根大学・寧夏大学国際共同研究所

協 力：復旦大学六次産業研究院、楊凌六次産業研究センター  
創新研究院、農林中金総合研究所、立命館大学経済学部

日程：2024年10月30日（水）～31日（木） エクスカーション  
2024年11月1日（金） フォーラム

スケジュール概要：

(1) 学術フォーラム

午 前：開幕式 島根大学 大谷浩学長 あいさつ

基調報告 復旦大学六次産業研究院 張来武教授  
農林中金総合研究所 皆川芳嗣理事長

午 後：分科会1（理論）、分科会2（実践）

テーマ：①六次産業の革新と実践、②多視点からの公共ガバナンスの行動と実践、  
③社会変革における西部地域の新たな発展問題 等

(2) 企業家フォーラム

- ・島根県産地支援課による六次産業に対する行政支援の状況紹介
- ・日中の企業による企業紹介（各企業5～10分程度）、意見交換

○写真



大谷学長によるあいさつ



基調報告の様子



張来武氏による講演



皆川芳嗣氏による講演



分科会の様子



企業家フォーラムの様子



集合写真

○会議パンフレット

[https://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/news/news\\_pdf/202410246thsectorforum\\_pamphlet.pdf](https://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/news/news_pdf/202410246thsectorforum_pamphlet.pdf)

## I - 9 韓国農村邑面自治研修団の受入

2024年7月3日（水）～7日（日）、韓国・東洋大学校黄宗圭教授を団長とする「韓国農村邑面自治研修団」を受け入れ、島根県内で視察を行った。

韓国では、農村の活性化に関する民間活動として、マウル（村落）と呼ばれる集落レベルのコミュニティ活動が2010年ごろから活発化しており、韓国マウル連合という全国的なネットワーク組織が設立され、様々な取り組みを行っている。今回の研修は、マウル研究所イルソゴンドの具滋仁所長が企画し、韓国の農村草の根活動家、研究者、中間支援組織の職員等、計26名が参加した。26名はそれぞれ分野が異なるものの、村落の維持と発展に関わっており、島根県における官民協働の地域づくりや住民自治組織づくり等について学ぶため、島根県を訪れた。

今回の研修では、共同研究所がコーディネートを行い、安来市・雲南市・邑南町の各地域コミュニティを視察し、住民自治による地域運営の取り組みや、行政によるコミュニティ支援等について説明を受けた。

参加者からは、「ソーシャルキャピタルを利活用して、各セクションがコミュニティの維持に努めており、地域住民の信頼関係・互助関係の構築が重要だとわかった」「大学生等の第三者を地域活動に呼び込むことにより、第三者評価を実施することができ、問題点をより明確にしている点が印象深かった。大学と連携して地域運営が上手くいっている例だと思う」等、具体的な感想が聞かれ、今回の視察に満足している様子が伺えた。また、今後も継続して研修団の派遣を行いたいとのことである。共同研究所としても、研修を機に、定期的な研究会の開催や共同研究等への発展へ向け努力したい。

### ○写真



波多地区視察



雲南市視察



吉田ふるさと村視察



集合写真

### ○視察スケジュール

日にち	曜日	時間	項目
2024/7/3	水	1450着 1630-1830 1900	米子空港着後、ホテルへ移動 オリエンテーション、法文学部藤本准教授（共同研究所兼任研究員）によるワークショップ レセプション
2024/7/4	木	0830 0930-1100 1120-1200 1200-1300 1300-1430 1430-1530 1530-1700 1715-1800 1830	チェックアウト後、安来市比田地区に移動 比田地区（小さな拠点のモデル地域）視察 昼食後、えーひだ市場 見学 雲南市役所へ移動 雲南市の小規模多機能自治（地域自主組織）の取組視察 移動：バスは校庭に停める 地域自主組織「波多コミュニティ協議会」の取組視察 バスで移動後、波多温泉 満寿の湯で入浴 入間交流センター（宿泊先）に移動
2024/7/5	金	900-950 1030-1200 1220-1310 1330-1410 1420-1500 1530-1700 1700	入間交流センター 視察、レクチャ 鍋山交流センター 視察 昼食（レストラン句香） 中野交流センター 視察 農事組合法人フレッシュファーム神代 視察 吉田ふるさと村視察、レクチャ 国民宿舎清嵐荘へ移動
2024/7/6	土	0800発 1000-1230 1250-1340 1340-1410 1430-1600 1600-1630 1630	チェックアウト、清嵐荘出発 長谷川敏郎氏レクチャ、アグロエコロジーの実践状況視察 昼食（香夢里） ホームセンターにて農業資材視察 小さな拠点ネットワーク研究所 白石氏による「ちくせん」中間支援活動等レクチャ 道の駅みずほ視察 邑南町発、中国道経由で松江
2024/7/7	日	午後	米子空港から帰国

## Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

### Ⅱ - 1 日中両国における学術共同調査研究

【2023 年度】

#### Ⅱ - 1 - 1 中国人民大学との日中共同研究にかかる 邑南町調査の実施

2023 年 11 月 15 日（水）、日中の研究者合同で邑南町の現地調査を実施した。今回の現地調査は、中国人民大学胡霞教授、および胡教授の中国国内の研究フィールドである河北省徳勝村の農村振興を行う際源控股有限公司の希望で実施したもので、胡霞先生の研究カウンターパートである当研究所の関副所長が案内し、田中研究員が同行した。

徳勝村では、農業生産を基幹産業としながら、クリーンエネルギー（風力）生産の取り組みや、エコツーリズム産業の強化に取り組んでいる。そのため今回は、日本で農村振興に取り組む企業に対する聞き取り、農作物販売システムとしての道の駅の機能調査、木造建築の見学、の 3 点を中心に調査を実施した。

当日は、まず一般社団法人ビレッジプライド邑南を訪問し、川久保常務理事から業務概要の説明を受けるとともに、畜産業の現場や日和地区のスーパーや邑南町が実施していた「耕すシェフ」制度を卒業した方が開業した古民家レストランを見学し、地域内経済循環を目指した仕組みづくりの現状を視察した。次に視察した道の駅みずほでは、商品管理の DX 化に関する取り組みを視察した。参加者たちは先進的な管理方法に感銘を受けた様子であった。

調査に参加した際源控股有限公司の董義董事長からは、「今回の調査を通じて、徳勝村の今後の発展計画に対する多くの示唆を得た。今ある資源を有効活用した日本の先進的な事例を取り入れ、徳勝の発展に努めたい」との感想をいただいた。来年度は、徳勝村での日中の合同調査や共同研究も予定されており、今後、地域内経済循環を目指した、徳勝村と邑南町の国際比較研究等への発展が期待される。

#### ○写真



ビレッジプライド邑南



道の駅みずほ

## 【2024 年度】

### Ⅱ - 1 - 2 西北農林科技大学における協議・調査の実施

2024年8月7日（水）～10日（土）、当研究所の一戸所長、関副所長および田中研究員が中国・西北農林科技大学を訪問した。今回の訪問は、同学経済管理学院の余勁教授と陳暁楠副教授からの招待を受けたもので、今後の学術交流に関する対面協議と西北農林科技大学の所在地である陝西省咸陽市楊凌区内の視察を行った。

協議では、今年度共同で実施予定の第4回六次産業化国際フォーラムの詳細確認と今後の共同研究に関する打ち合わせを行った。共同研究については、これまで双方が取り組んできた農山村地域の地域振興について、学際的な視点から新たな評価指標を確立するための研究を共同で実施することで合意した。

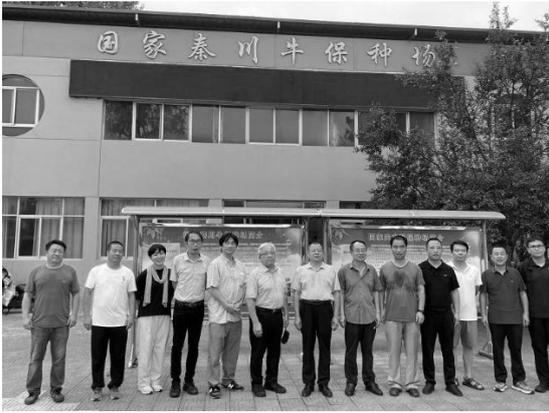
視察では、陝西省の固有種である「秦川牛」を飼養する「陝西省農牧良種場」と楊凌区が建設した「楊凌スマート農業モデル区」を見学した。秦川牛は中国の代表的な大型の役牛・肉牛兼用品種で、陝西省農牧良種場では、種の血統保存のために秦川牛の飼養を行っている。2021年には国家農業農村部から「国家畜禽遺伝資源保種場」の認定を受け、これまでに純血秦川牛の12系統を選育し、現在275頭を飼養している。楊凌スマート農業モデル区は、上海協力機構の支援の下に建設された施設で、当該機構の技術研修を行う場としても利用されている。モデル区の面積は720ムー（約48ha）に及び、北米地域・中東地域等、世界各地域の気候状況をハウス内に再現し、各気候に適した作物栽培を行う。また、中央管理棟では、モデル区内の5つの農業区の作物の生育状況、環境諸元、施肥実施について、ICT技術により管理されている様子を見学した。国の支援の下で、陝西省の基幹産業である農業の発展が先端技術の導入により急速に推し進められている様子を視察することができた。

移動を合わせて4日間という短い訪問だったが、先方の厚意により充実した協議・視察内容となった。今後も、学術交流を通して西北農林科技大学との協力関係を深めていきたい。

#### ○写真



協議の様子



陝西省農牧良種場の視察



楊凌スマート農業モデル区の視察

### II - 1 - 3 安康学院における協議・調査の実施

2025年3月21日（金）～24日（月）、本研究所の一戸所長、関副所長、田中研究員が中国・陝西省にある安康学院を訪問した。今回の訪問は、これまで中国西北農林科技大学の教授として本学との交流を積極的に推進して来た余勁教授が、2024年12月に安康学院の校長に就任したことを契機に実施されたもので、島根大学との交流協定の締結を視野に入れた、安康学院の視察と安康市周辺における研究シーズの調査を目的としている。

安康学院は陝西省南部の安康市に位置し、12学部41専攻を持つ省級の総合大学で、約12,000人の学生と約700人の教職員が在籍している。訪問では、余勁校長および崔曉明副校長と面会して今後の交流の方向性について協議を行うとともに、鐘生海書記を表敬する機会を得、今回の訪問を通じて相互理解を深め、今後の大学間交流に向けてともに努力することを確認した。

学内見学では、校史館で安康学院の設立以降の歴史について紹介を受けた他、地域貢献成果展示館や、陝西省の伝承文化の展示等を見学した。安康学院は地方都市に立地する大学として地域貢献に力を入れているということで、生態系に配慮した循環農漁業や、現地の土壌

に多く含まれるセレンを利用した商品開発等、地域資源を利活用した研究開発に取り組んでいる。

また、23日（日）には、安康市内の漢陰県まで足を延ばし、鳳堰古棚田移民生態博物館を視察した。この博物館は、古代の灌漑設備を利用した棚田を軸とした集落全体を博物館とするもので、訪問時には採油用の菜の花が咲き誇っていた。自然環境を有効利用した灌漑設備が長年に渡って受け継がれていることが評価され、「世界かんがい施設遺産」に登録されたとのことで、年々観光客が増えているため、エコツーリズム実施のための設備整備や、その利益をどう地域住民と共有するかが課題であるということである。

今回の訪問を通じて、島根大学と安康学院の共通点を認識し、多くの分野における学术交流の可能性を双方で確認することができ、実り多い訪問となった。

### ○写真



余勁校長らとの面会



鐘書記と



地方貢献成果展示館



漢陰県視察

## Ⅱ - 1 - 4 安康学院余校長ら一行による島根大学訪問と現地視察

2025年3月27日（木）、中国・安康学院の余勁校長一行が島根大学を訪れ、協議と視察を実施した。今回の訪問は、これまで中国西北農林科技大学の教授として本学との交流の中心人物であった余勁教授が、2024年12月に安康学院の校長に就任したことを契機に実施されたもので、安康学院と島根大学との交流協定の締結に向けた協議を行う他、これまでともに築いてきた人的ネットワークである西部学術ネットワークを基盤とした交流の強化を目的としている。

午前中は、学内にて学長表敬および研究協議を行った。学長表敬では、大谷浩学長との懇談が行われるとともに、余勁校長より安康市および安康学院の紹介をいただいた。研究協議では、安康学院および西北農林科技大学と島根大学の強みを生かした共同研究の方向性の確定と、共同での研究助成申請に向けた意見交換を行った。

午後からは松江市にあるライスフィールド有限会社を訪問し、吉岡雅裕代表取締役より会社運営理念と経営実態、総面積250ヘクタールにおよぶ集積水田の水稻と飼料イネの作付け体系についてご説明いただいた。余勁校長ほか訪問メンバーからは、農家からの水田移譲に至るプロセス、JAとの関連、国からの助成金交付などについて熱心に質問がありました。余勁校長は、「食用米、飼料用稲の生産を持続するためのライスフィールドの経営方針、人材育成を主目的としていることに感銘した」との感想をいただいた。その後、島根大学本庄農場に移動し、安康市の特産の一つでもある茶栽培の様子を見学した。

今回の訪問には、西北農林科技大学において余勁教授の元指導学生であった教員らも同行しており、西部学術ネットワークを基盤とした交流のさらなる拡大・強化が期待される。

### ○写真



大谷学長表敬訪問



表敬集合写真



研究協議の様子



島根大学本庄農場視察



ライスフィールドにて



ライスフィールド育苗場

## Ⅱ - 2 研究費の獲得

### ○科研費

・関耕平「コミュニティ・エンパワメントと地方財政—ソフト事業の制度設計をめぐって」, 科研基盤 C, 2023-2025 年, 65 万円 (直接経費), 研究代表者

・関耕平「福島復興 10 年間の検証と長期的な課題の抽出に向けた学際的な研究」, 科研基盤 A, 2021-2025 年, 35 万円, 研究分担者

### ○その他外部資金

・一戸俊義「農山村における資源循環型社会の形成—資源利用の高度化と地域の持続可能性—」, 国立研究開発法人科学技術振興機構さくらサイエンスプログラム, 2023 年度, 2,754,980 円, 申請代表者

・関耕平「人口再生産力とコミュニティ機能にかんする日中比較—グローバル経済下で高出生率の地域を維持できるか—」, 公益財団法人日立財団 2022 年度 (第 54 回) 倉田奨励金, 2023 年度, 80 万円, 研究代表者

・関耕平「持続可能な地域づくりと窒素循環の日中比較研究」, 公益財団法人野村財団 2024 年度下期社会科学助成 国際交流助成 (研究者の招聘), 2024 年度, 62 万円, 研究代表者

## Ⅱ - 3 著書・論文等

### ○一戸俊義 (島根大学学術研究院農生命科学系教授, 島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長)

#### 【論文】

Misganaw Walie, Firew Tegegne, Yeshambel Mekuriaw, Atsushi Tsunekawa, Nobuyuki Kobayashi, Toshiyoshi Ichinohe, Nigussie Haregeweyn, Asaminew Tassew, Shigdaf Mekuriaw, Tsugiyuki Masunaga, Toshiya Okuro, Mitsuru Tsubo, Derege Tsegaye Meshesha, Enyew Adgo, Temesgen Mulualem. Biomass Yield, Quality, and Soil Nutrients of Pasture Influenced by Farmyard Manure and Enrichment Planting. *Rangeland Ecology & Management* 88: 174–181. March 2023.

Shigdaf Mekuriaw, Atsushi Tsunekawa, Toshiyoshi Ichinohe, Firew Tegegne, Nigussie Haregeweyn, Nobuyuki Kobayashi, Assaminew Tassew, Yeshambel Mekuriaw, Misganaw Walie Belete, Seid Ali, Mitsuru Tsubo, Toshiya Okuro, Derege Meshesha, Getu Abebe. Selection and evaluation of promising indigenous fodder trees and shrubs as supplemental diets for ruminant animals across different agroecological environments. *African Journal of Range & Forage Science* 41: 1-14. January 2024.

Qing Qing, Mitsuru Tsubo, Wuchen Du, Atsushi Tsunekawa, Fujiang Hou, Toshiyoshi

Ichinohe. Effects of dietary replacement of alfalfa hay with corn silage on energy utilization efficiency and metabolizable energy requirements in crossbred Hu ewes during early lactation. *Animal Science Journal* 96: e70034. January 2025.

【口頭報告】

Qing Qing, Mitsuru Tsubo, Wuchen Du, Atsushi Tsunekawa, Fujian Hou, Toshiyoshi Ichinohe. Effects of dietary replacement of alfalfa hay with corn silage on nutrient utilization, methane emission and milk production by long term feeding of crossbred Hu sheep in China. 第8回日中韓国際草地学会議（内モンゴル自治区呼和浩特市）. 2024年9月.

塩見将人・宋相憲・一戸俊義. 代謝性タンパク質充足を飼料設計の優先制約条件とした成メンヨウの日増体および窒素利用成績. 日本綿羊研究会第68回研究発表会（帯広市）. 2023年9月

一戸俊義. 未利用海藻給与による反芻家畜メタン削減. 島根大学・寧夏大学国際共同研究所第20回日中国際学術セミナー（松江市）. 2023年11月.

一戸俊義・関 耕平. 島根県知夫村公共牧場に放牧された黒毛和種繁殖雌牛の夏期における代謝エネルギー要求量の推定. 2024年度日本草地学会帯広大会（帯広市）. 2024年9月.

一戸俊義・阿部直・舟越稔・木村美樹雄. 山陰地方の非食用海藻を用いた反芻家畜のメタン産生量低減化の検討. 第74回関西畜産学会広島大会（東広島市）. 2024年11月.

一戸俊義. 島根県中山間地域の集落営農組織における繁殖和牛飼養現況調査. 寧夏大学・島根大学国際共同研究所第21回中日国際学術セミナー（銀川市）. 2024年12月.

○**関耕平（島根大学学術研究院人文社会科学系教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）**

【著書】

関根佳恵・関耕平編著『アグロエコロジーへの転換と自治体：生態系と調和した持続可能な農と食の可能性』自治体研究社、総ページ252頁、ISBN978-4880377742

日本財政学会編『ウェルビーイングと財政--財政研究 第20巻』（分担執筆）有斐閣、2024年、総ページ206頁、ISBN978-4-641-49011-6

【論文】

関耕平「公害被害救済から環境再生への移行ガバナンス-イタイイタイ病における「全面解決」を事例に-」『環境経済・政策研究』17(1)、2024年、pp.56-59、査読あり  
<https://doi.org/10.14927/reeps.ron1701-004>

関耕平「地域社会・地方財政から南西シフトと軍事基地強化を問う：伊江島と与那国島を中心に」『環境と公害』54(3)、2025年、pp.58-63、査読無し

関耕平「地方における地域福祉と地方自治体の役割を考える：島根県における「小さな

- 拠点」づくりを事例に」『福祉のひろば』299、pp.28-33, 2025-02
- 関耕平「地方における地域再生の実践とその位置づけ：軍拡・棄民政策に抗して」『経済』(353)、pp. 100-109, 2025-02
- 関耕平「南西シフト」による軍事基地配備と与那国島のいま」『住民と自治』(739)、pp. 22-24, 2024-11
- 関耕平「軍事化と私たちの生活：軍事費急増によって地域で何がおきているのか?」『学習の友』(855)、pp.24-28, 2024-11
- 関耕平「基礎理論学習」と「社会問題」として捉えるものの見方・考え方：気候危機問題の事例をもとに」『学習の友』(849)、pp.58-61, 2024-05

**【口頭発表】**

- 関耕平「原発被災地における震災復興とコミュニティー市町村財政の役割を中心にー」日本地方財政学会 32 回大会、2024 年、依頼・招待あり
- 関耕平「公害被害救済から環境再生への移行と協働の形成ーイタイタイ病を事例にー」企画セッション：公害地域の再生とステークホルダーの協働、日本環境学会第 50 回研究発表会、2024 年 6 月 23 日、三重大学
- 関耕平・北山幸子「中山間地域におけるアグロエコロジーの実践と経済的持続可能性：島根県邑南町における有畜複合経営の実態分析」環境経済・政策学会 2024 年大会、関西大学
- 関耕平「地域社会・地方財政から南西シフトと軍事要塞化を問うー伊江島と与那国島を中心にー」第 39 回日本環境会議東京大会、2024 年 9 月 21 日、招待あり

**○田中奈緒美（島根大学・寧夏大学国際共同研究所研究員）**

**【論文】**

- 田中奈緒美（2023）「多角的指標からみた日本語の話題転換の様相：女性二者間の初対面雑談会話の分析から」、『日本語教育』185、日本語教育学会、62-76.

**【口頭報告】**

- 田中奈緒美（2024）「雑談会話の話題移行パターンに関する日中比較」、第 21 回日中国際学術セミナー（中国・銀川）、2024 年 12 月.

**【その他】**

- 大津裕貴・李婉・田中奈緒美（2024）「グローバルな交流を通じた林業経済研究の楽しさ」、『林業経済』77（1）、林業経済研究所、18-27.
- 大津裕貴・李婉・田中奈緒美（2024）「出雲地方における食の安全を求めた地域ネットワーク：井口隆史 島根大学名誉教授からの聞き書き」『山陰研究』16、島根大学法文学部山陰研究センター、65-80.

**○藤本晴久（島根大学法文学部准教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）**

**【著書】**

藤本晴久、「第7章 持続可能な島根県経済をつくるために」、藤本晴久ほか『地域社会の持続可能性を問うー山陰の暮らしを次世代につなげるためにー』、今井印刷、2024年3月

藤本晴久、「第9章 失われる島根県の「小さな農業」」、藤本晴久ほか『地域社会の持続可能性を問うー山陰の暮らしを次世代につなげるためにー』、今井印刷、2024年3月

藤本晴久、「第13章 地域未来牽引企業と地域経済-取引構造の分析を中心に-」、岡田知弘・岩佐和幸編『人間復興の地域経済学ー地域とくらしの歴史・理論・政策』、自治体研究社、2024年12月

#### 【論文】

藤本晴久、VUCA時代と地域資源を活用した地域づくり、島根大学人間科学部紀要7: 64-65、2024年3月

藤本晴久、食料廃棄資源のアップサイクルによる地域循環経済の形成-(株)錦海化成の事例研究-、経済科学論集51: 41-57、2025年3月

#### 【口頭報告】

Haruhisa Fujimoto, Yoshifumi Ikejima, How can we measure economic ripple effects in a regional economy using Hierarchical Interfirm Trading Network dataset?, Regional Studies Association Annual Conference 2023, 15th June, Slovenia

Haruhisa Fujimoto, Yoshifumi Ikejima, Kenji Ogai, Need Four Types of Circulation?: Revitalizing Local Economies through Circular Food Economy in Japan, Regional Studies Association Annual Conference 2024, 13th June, Italy

藤本晴久「六次産業化による島根県農業の再生」第4回六次産業化国際フォーラム、2024年11月1日、松江

藤本晴久・池島祥文・大貝健二「地域におけるサーキュラーエコノミーの可能性ー資源循環型企業の取引構造とその類型化ー」日本地域経済学会 第36回全国大会、2024年12月8日、大阪

### ○保永展利（島根大学生物資源科学部准教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所兼任研究員）

#### 【著書】

Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue, Yukiko Nakama (eds.) Community Vitalization and Rebuilding of Small Rural Economies: A Focus on Less-Favored Areas in Japan. Springer. November 2024 (ISBN: 9789819771653)

#### 【論文】

Nesar Ahmad Naseri, Nobuyoshi Yasunaga, Rosalia Natalia Selek, Norikazu Inoue. Challenges and Strategies of Tomato Value Chain Development in Disadvantaged Areas: Rural Afghanistan Case Study. 農業経営研究 62(4): 70-76. February 2025.

Nesar Ahmad Naseri, Nobuyoshi Yasunaga, Rosalia Natalia Selek, Norikazu Inoue. Challenges and Strategies of Tomato Value Chain Development in Disadvantaged

Areas: Rural Afghanistan Case Study. 農業経営研究 62(4): 70-76. February 2025.

Md. Shajidur Rahman, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue. Path analysis of non-farmer's intention to enter farm and farm-related businesses: a case of Bangladesh. *Journal of Social and Economic Development* (online published), January 2025.

李婉, 保永展利, 高橋 絵里奈, 井上 憲一. 日本と中国の大学生における森林に関する知識・態度・行動の特徴と関係—島根大学によるケーススタディー—. *環境教育* 33(1): 1\_14-26. 2024年1月.

藤井美紀, 保永展利. ライフヒストリーからみた起業家的志向と事業ネットワークの形成要因—中山間地域の小規模農業関連事業者に着目して—. *地域活性研究* 19: 179-188. 2023年10月.

Xiaoxi Gao, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue. Pathways influencing bearers and abandoned farmlands through farmland intermediate management institutions: using prefectural data in Japan. *Asia-Pacific Journal of Regional Science* 7(4): 1261-1287. June 2023.

Bebechou Mariam, Adam Dade, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue. Extrinsic attributes affecting local rice brand preferences: urban areas in Benin Republic. *Asia-Pacific Journal of Regional Science* 7(3): 935-957. May 2023.

#### 【口頭報告】

Bebechou Mariam, Adam Dade, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue, Rosalia Natalia Selek. Availability of local rice in urban markets: In open-air markets, does local rice compete with imported rice?. 第74回 地域農林経済学会大会, 2024年10月26日. 京都.

Xiaoxi Gao, Nobuyoshi Yasunaga. Factors Affecting Farmland Leasing through Farmland Intermediary Management Institutions in Japan. 令和6年度 日本農業経営学会研究大会, 2024年9月15日. 松山.

Md. Rahman Shajidur, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue. Examining the Determinants of the Sales Revenues Stagnant in the Jute Product Businesses: The Bangladeshi Case. 令和6年度 日本農業経営学会研究大会, 2024年9月15日. 松山.

Bebechou Mariam, Adam Dade, Nobuyoshi Yasunaga, Rosalia Natalia Selek. Japanese consumers perception of imported tropical fruit: A case study of Benin Republic dried pineapple. ARAFE the 8th International Workshop, 2024年6月29日. 名古屋.

李婉, 保永展利, 高橋絵里奈. 大学生の樹木認識の特徴: 日本と中国を事例として. 第74回 応用森林学会大会, 2023年11月26日. 高知.

Xiaoxi Gao, Nobuyoshi Yasunaga. Characteristics of Farmland Transfer in San'in Region, Japan. 第20回日中国際学術セミナー, 2023年11月13日. 松江.

李婉, 保永展利, 高橋絵里奈. 樹木認知に関するテキストマイニング分析. 第20回日中

国際学術セミナー, 2023年11月13日. 松江

Xiaoxi Gao, Nobuyoshi Yasunaga. Impact of regional characteristics on farmland transfer in municipalities, Japan. 日本地域学会 第60回(2023)年次大会, 2023年10月9日. 名古屋.

Md Shajidur Rahman, Nobuyoshi Yasunaga. Actual Situation of Jute Sales Promotion and Management Strategy: A Case of Jute Diversification Promotion Centre, Dhaka, Bangladesh. 令和5年度日本農業経営学会研究大会 2023年9月10日. 世田谷.

Nesar Ahmad Naseri, Rosalia Natalia Seleky, Nobuyoshi Yasunaga, Norikazu Inoue. Challenges and Strategies of Tomato Farms for Value Chain Promotion: A Comparative Case Study in Japan and Afghanistan. 令和5年度日本農業経営学会研究大会, 2023年9月10日. 世田谷.

李婉, 保永展利. 森林環境教育に対する日本と中国の住民意識に関する考察. 日本環境教育学会 第34回年次大会, 2023年8月27日. 鳥取.

## ○大西広 (京都大学名誉教授, 島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員)

### 【著書】

Hiroshi Onishi, *Marxian Economics: A New Japanese Tradition*, Pluto Press, London, 2023.5.

大西広「地理」日中友好協会編『中国百科 増補改訂版』めこん、2023年4月10日, pp.22-77

大西広『「人口ゼロ」の資本論』講談社+α新書、2023年9月21日.

大西広『馬克思主義経済学(第4版)』中国画報出版社、2024年7月.

大西広『バブルと資本主義が日本を潰す-貧困と人口減の資本論』ちくま新書、2024年10月10日.

大西広『反米の選択-トランプ再来で増大する”従属”のコスト』ワニ・ブックス PLUS 書、2024年11月29日.

大西広「第5章「台湾問題-侵略への深い反省の上に平和的解決の努力を求める-」日中友好協会編『「台湾有事」を起させないために』本の泉社、2024年11月、pp.53-61.

大西広「加強全球南方団結、反对帝国主義」中国社会科学院世界社会主義研究中心編『構建人類命運共同体与世界社会主義發展-第13届世界社会主義論壇論文集』重慶出版社、2024年9月、pp.594-596.

### 【論文】

大西広「新疆ウイグル自治区民族問題の実際と背景」『研究中国』第16号、2023年4月1日, pp.58-64.

大西広「アメリカの「新冷戦」、中国の経済援助-ウクライナ問題とは何か」『経済科学通信』第157号、2023年6月, pp.23-25.

大西広「中国評価で問われるのは私たちの立ち位置」『現代の理論』2023夏号、2023年

7月, pp.56-61.

大西広「中国ラオス鉄道開業後の営業成績と返済可能性について」『グローバル・アジア・レビュー』第13号、2023年8月、pp.4-5.

大西広「中国の「保守的自由主義」は真の普遍たりうるか—許紀霖の非マルクス主義的普遍主義を批判する—」『社会主義理論研究』第3号、2023年11月、pp.54-70.

大西広「港区における住民要求の変遷と政治の課題」『月刊東京』第449号、2023年12月、pp.10-15.

大西広「台湾問題—侵略への深い反省の上に平和的解決の努力を求める—」『平和運動』第634号、2024年2月号.

大西広「中国政府によるモスクの強制改修問題をどう考えるか」『グローバル・アジア・レビュー』第14号、2024年7月、pp.4-6.

大西広「股价地价飙升与贫困加剧」中国社会科学院日本研究所『日本学刊』2024年第5期, pp.1-10.

大西広「マルクス= エンゲルスの古代母系制社会論—須藤（1989）のミクロネシア社会論を踏まえて」『三田学会雑誌』第117巻第2号、2024年10月、pp.49-59.

大西広「『「人口ゼロ」の資本論—持続不可能になった資本主義』に対する前畑雪彦氏の書評へのリプライ」『季刊経済理論』第61巻第4号、2025年1月.

#### 【その他】

大西広「「中国式現代化」と「共同富裕」」『人民中国』2023年4月号.

大西広「新自由主義の敗北、ナショナリストの勃興」『社会主義理論学会会報』第86号、2023.4.

大西広「民族・宗教」日中友好協会編『中国百科 増補改訂版』めこん、2023年4月10日.

大西広「米中貿易戦争から政治対立へ」日中友好協会編『中国百科 増補改訂版』めこん、2023年4月10日.

大西広「習近平政権の経済戦略」日中友好協会編『中国百科 増補改訂版』めこん、2023年4月10日(山本恒人と共著).

大西広「『マルクス派数理政治経済学』に対する小堀眞裕氏の書評へのリプライ」『季刊経済理論』第60巻第1号、2023年.

大西広「習近平外交の世界戦略と日中関係—第3回「中国問題懇談会」で意見交換」『日中友好新聞』第2590号、2023年6月15日.

大西広「4年ぶりに開催した日中社会主義フォーラム」『社会主義理論学会会報』第87号、2023.11.

大西広「人口的持続可能性を喪失した資本主義」『社会主義理論学会会報』第87号、2023.11

大西広「少子化と『資本論』」(白井聡京都精華大学教員との対談)『週刊現代』23年11月25日号.

大西広「開業1年半を経た中国ラオス鉄道の現状と債務問題」『日中友好経済懇話会』第

71号、2023年11月28日。

大西広「港区における住民要求の変遷と政治の課題」『月刊東京』第449号、2023.12

大西広「このままでは避けられない「人口ゼロ」の未来」『THE 21』第470号、2024年1月号。

大西広「錚々たる初代メンバーの颯爽とした旗手--「非核の会・京都」初代表岩井忠熊先生を偲ぶ」『非核の政府を求める京都の会ニュース』第222号、2024年1月15日付。

大西広「個人を大事にした組織人だった望田先生」望田幸男先生を偲ぶ会編『望田先生大いに語る。』2024年2月。

大西広「民進党の1勝1敗、民衆党躍進となった台湾選挙について」『アジア・アフリカ・ラテンアメリカ』第764号、2024年3月1日。

大西広「人口戦略会議の「人口ビジョン2100」を批判する」『NPO 現代の理論・社会フォーラム NEWS LETTER』第17巻第3・4号、2024年3・4月。

大西広『『社会主義理論研究』第3号小論の紹介について』『社会主義理論学会会報』第88号、2024年4月10日。

大西広「政治のあり方を問い、西側イデオロギーから自由になるために」『非核の政府を求める京都の会ニュース』第224号、2024年5月15日号。

大西広「映画で深めた兩岸関係」『日中友好新聞』第2614号、2024年6月15日。

大西広「100年後の日本人口-国立人口研の甘すぎる予測を批判する」『経済統計学会政府統計研究部会ニュースレター』第54号、2024年6月30日。

大西広「識者解説」進藤榮一『進藤榮一著作集第4巻地殻変動する世界-アジア力の世紀-光は東方から』花伝社、2024年7月。

大西広「米大統領選で再注目の台湾問題-ブックレット『「台湾有事」を起こさせないために』発行、学習会で活用を」『日中友好新聞』第2614号、2024年11月15日。

大西広「野党と市民の団結固まるも課題を残した都知事選」『経済科学通信』第160号、2024年12月。

大西広「特集Ⅱ 労働組合を含む各種組織を作り大きくするために 解題」『経済科学通信』第160号、2024年12月。

大西広「台湾の反戦勢力と率直に意見交換・交流」『日中友好新聞』第2626号、2024年12月15日。

大西広「日本平和大会で元731部隊隊員が証言」『日中友好新聞』第2627号、2025年1月1日。

大西広「今こそ「反米の選択」に踏み切れ!」『月刊日本』2025年2月号。

大西広「人口推計に関する政治的バイアスの疑惑」『経済統計学会政府統計研究部会ニュースレター』第56号、2025年2月28日。

大西広「反米の選択-トランプ再来で増大する”従属”のコスト」『レコンキスタ』第550号、2025年3月1日。

大西広「被団協スピーチに感じた違和感」『NPO 現代の理論・社会フォーラム』第17巻  
第3・4号、2025年3月。

○伊藤勝久（島根大学名誉教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【著書】

伊藤勝久，国民森林会議40年史（国民森林会議編），担当：国民森林会議の40年と森林・  
林業政策，pp.227-234，資料年表，pp.422-465，日本林業調査会，2025.2

【口頭報告】

伊藤勝久，地域森林管理と森林環境譲与税—国民の期待と森林管理林業振興の方法—，令  
和5年全国森林組合全国研究集会 基調報告，2023.9.8，松江市

伊藤勝久，持続可能な山元立木価格—立木の価格形成を山林所有者に取り戻す—，日本林  
業経営者協会 理事会・経営講座，2023.9.21，大阪市

伊藤勝久，山林所有者と森林経営の今後のために—持続可能な山元立木価格とは—，新潟  
県森林組合連合会80周年記念 基調講演，2023.11.17，新潟市

山元周吾，山本章平，伊藤勝久，中山間地域市町村の林業振興戦略と課題—島根県雲南市  
を事例として—，林業経済学会2023年秋季大会，2023.11.25，琉球大学

伊藤勝久，林業投資の地域経済振興効果—森林環境譲与税の用途による検討—，第21回  
中日国際学術セミナー，2024.12.7，中国・寧夏大学

【その他】

伊藤勝久，地域森林管理と森林環境譲与税—国民の期待と森林管理林業振興の方法—，森  
林組合（全国森林組合連合会），No.641 pp.6-15，2023.11

○大津裕貴（にちなん中国山地林業アカデミー，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研  
究員）

【著書】

大津裕貴「牧場をきっかけに生産を考える」，藤本晴久ほか著『地域社会の持続可能性を  
問う：山陰の暮らしを次世代につなげるために』，島根大学法文学部山陰研究センタ  
ー，162-164，2024年3月

【論文】

大津裕貴「飼料高騰下の中国地方酪農経営における耕畜連携の実態と課題」，山陰研究 17:  
1-18，2025年3月

【その他】

大津 裕貴，李 婉，田中 奈緒美「出雲地方における食の安全を求めた地域ネットワー  
ク：井口隆史 島根大学名誉教授からの聞き書き」山陰研究 16：65-80. 2024年3月

大津 裕貴，李 婉，田中 奈緒美「グローバルな交流を通じた林業経済研究の楽しさ（私  
の研究史〈井口 隆史〉）」林業経済 77(1)：18-27. 2024年4月

○小池浩一郎（島根大学名誉教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【口頭報告】

小池浩一郎，「Scientific Forestry：その生成と展開」，林業経済学会秋季大会，2023.11.25，  
沖縄県中頭郡西原町（琉球大学）

小池浩一郎，「火と森林植生—その由来と現在」，林業経済学会秋季大会，2024.11.23，福  
岡市（九州大学）

○周艶（北方民族大学副教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【著書】

周艶，《当事者和第三方所具有的公平观实验研究—基于中日比较的视角》，经济管理出版社，  
2023年7月。

【論文】

Yan Zhou, Keiko Aoki, Kenju Akai “Relationship between health behavior compliance  
and prospect theory-based risk preferences during a pandemic of COVID-19”,  
China Economic Review, Vol.86, pp. 102181, 2024. (SSCI, Q1) .

Yan Zhou, Lu Liu, Lijun Liu, Zijian Ji “The innovation path of agricultural products  
e-commerce marketing mode under the background of “live broadcast + short  
video””, Applied Mathematics and Nonlinear Sciences, 2023 (EI) .

【口頭報告】

周艶「日本対アフガニスタン姿勢と関係の変遷-米国撤退前後の視点から」，『第2回アフ  
ガニスタン情勢シンポジウム・アフガン研究編集委員会第2回全体会議』，山西省社  
会科学院，2024年7月12-15日。

○具滋仁（マウル研究所イルソゴンド所長，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【著書】

具滋仁（編集・執筆），「(農村マウル政策用語辞典シリーズ) マウル，行政里，村づくり，  
里長，委員長，邑・面，民間委託，農村空間再構造化法」，忠南農村活性化センター，  
『マウル読本』(26号~30号)，忠南経済振興院，2024年12月

具滋仁，「第5章 農村空間計画と住民参加」，農村振興庁，『農村空間計画の理解』，チン  
ハンM&B，2024年12月

【論文】

具滋仁，農村中間支援組織の活動家の必要性和育成の体系，マウル学会誌 11：22-40，2024  
年7月。

具滋仁，農村邑面における非営利ネットワーク法人の設立と運営，そして発展方向，マウ  
ル学会誌 12：13-43，2024年8月。

具滋仁，農村マウル再生，誰がどのような経路を辿り実践するのか，(社)モシムとサリム  
研究所，モシムとサリム 23：44-61，2024年8月。

## 【口頭報告】

具滋仁,「日本雲南市における地域自主組織と農村 RMO」,日本島根県の農福連携研修団,  
2024年11月3日,松江.

具滋仁,「農村新活力プラス事業と民間主体の育成方法」,マウル研究所イルソゴンド 2025  
年第1次農村政策集中教育,2025年3月27-28日,韓国洪城.

具滋仁,「邑面発展計画づくりの意味と方法論」,韓国農村経済研究院,農村経済社会サー  
ビス法の第2次専門家ワークショップ,2025年3月26日,韓国世宗.

具滋仁,「共有財産法と行政事務の民間委託制度に関する理解」,洪城郡まちづくり支援セ  
ンターのまちづくり TF 学習会(第4次),2025年1月14日,韓国洪城.

## 【その他】

具滋仁(編集・執筆),「第2章 日本島根県の研修訪問地の紹介」と「第4章 日本の農  
村 RMO に関する主要文献(翻訳)」,2024 韓国農村邑面自治研修団,『日本島根県にお  
ける農村 RMO(地域自主組織)の研修』(事前学習資料集), pp.12-53 と pp.68-126,,  
2024年7月

具滋仁,「日本の農村 RMO に関する理解」,2024 韓国農村邑面自治研修団,『農村邑面に  
おける実践組織の模索』(日本島根県農村 RMO(地域自主組織)研修結果報告書),  
pp.119-245, 2024年10月31日

具滋仁,超高齢化の時代,誰が農村景観を管理するのか,韓国農漁民新聞,2025年3月  
25日

具滋仁,邑面自治共同行動,農村再生のための草の根ネットワーク組織,韓国農漁民新聞,  
2025年2月11日

具滋仁,不確実性の時代,農村政策の予測可能性を高める方案,韓国農漁民新聞,2025年  
1月3日

具滋仁,5大核心民間組織がリーダーする自治体政策の設計,韓国農漁民新聞,2024年11  
月15日

具滋仁,自治体の農政システムの転換と2026年6月地方選挙,韓国農漁民新聞,2024  
年10月1日

具滋仁,日本農村の地域運営組織(RMO)研修から学んだもの,韓国農漁民新聞,2024年  
8月20日

具滋仁,邑・面に根を下ろした非営利ネットワーク法人の設立が緊急な課題,韓国農漁民  
新聞,2024年7月2日

具滋仁,邑・面所在地の拠点空間,誰がどのように運営するのか,韓国農漁民新聞,2024  
年5月17日

具滋仁,誤解が多い中間支援組織,制度的理解が先に必要である,韓国農漁民新聞,2024  
年4月2日

具滋仁,溢れる農漁村のごみ,政策核心が必要である,韓国農漁民新聞,2024年2月16  
日

具滋仁,全ての邑・面に非営利ネットワーク法人を設立しよう,韓国農漁民新聞,2024年

1月3日

**○小井川広志（関西大学教授，島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）**

**【論文】**

小井川広志「都市ジョージタウン（ペナン）の歴史的発展とその文化遺産」，関西大学商学  
論集 第68巻第4号，pp.1-19，2024年9月．

**【口頭報告】**

小井川広志「マレーシアにおけるパーム油産業バリューチェーンの発展—寧夏枸杞産業への  
教訓—」，第二十一回日中国際学術セミナー，2024年12月7日，寧夏大学，銀川．

## Ⅲ 2023・2024 年度研究所活動の記録

### Ⅲ - 1 研究交流活動

#### Ⅲ - 1 - 1 国際共同研究所第 5 次基本合意書の締結

2024 年 6 月、島根大学と寧夏大学は島根大学・寧夏大学国際共同研究所第 5 次基本合意書（2024）を締結した。

第 5 次基本合意書では、本研究所が従来取り組んできた条件不利地域における環境保全・地域発展に関する学際的研究および国際地域研究の他、第 4 次基本合意書で定めた「持続可能な開発目標 (SDGs)」に関する学際的研究を引き続き最も重要な研究課題とするとともに、既存産業のグリーン化に関する研究を新たな重要課題として位置付けた。

この度の第 5 次基本合意書の締結を機に、自然・社会・人文科学の各分野において、ますます両大学の学術交流が盛んになることが期待される。

p.68 V - 4 に第 5 次基本合意書の写しを掲載

#### Ⅲ - 1 - 2 研究所運営に関する協議等

##### 1) 2023 年 10 月 19 日 (木) 2023 年度第 1 回運営委員会 (オンライン)

参加者：日本側 一戸所長、関副所長、田中研究員

中国側 賈所長、羅所員、李所員

協議内容：

- 1 第 20 回国際学術セミナーについて
- 2 第五次基本合意書について
- 3 研究所分担金について
- 4 その他
  - (1) 第 21 回国際学術セミナーについて
  - (2) 寧夏大学の組織改革について

##### 2) 2024 年 3 月 22 日 (金) 2023 年度第 2 回運営委員会 (オンライン)

参加者：日本側 一戸所長、松本副所長、田中研究員

中国側 馬雯对外合作交流処副処長、金忠傑外国語学院副院長  
蔵所員、李所員、羅所員

協議内容：

- 1 馬雯对外合作交流処副処長によるあいさつ
- 2 両大学学生の相互留学関連事項について

- 3 2024年度の研究所事業について
  - (1) 第21回国際学術セミナー
  - (2) 5大学連携会議について
  - (3) 寧夏大学教員との共同研究について
  - (4) 大谷学長の寧夏訪問について
- 4 第五次基本合意書について
- 5 その他
  - (1) 分担金について
  - (2) 寧夏大学側の研究所メンバーおよび顧問について
  - (3) 学生交流に関する情報共有

### 3) 2024年9月30日(月) 2024年度第1回運営委員会(オンライン)

参加者：日本側 一戸所長, 田中研究員

中国側 趙亜峰对外合作交流处处长、金忠杰外国语学院副院长、李楊所員

協議内容：

- 1 第21回国際学術セミナーについて
  - (1) セミナー主題
  - (2) セミナー開催時期
- 2 その他
  - (1) 研究所設立20周年記念事業について
  - (2) 研究所棟管理費(5万元)の支払いについて

## III - 1 - 3 客員研究員による研究報告会の開催

### 1) 関西大学小井川広志教授による寧夏調査報告会

開催日時：2024年11月29日(金) 10時00分～11時30分

開催場所：オンライン

内容：2024年9月に小井川教授が実施した寧夏調査に関する報告会を開催した。報告会では、小井川教授が写真を交えながら、寧夏の特産産業である枸杞産業の状況調査について説明を行い、寧夏自治区外事弁のコーディネートの下、充実した調査内容であったことが報告された。

### 2) 面代真樹氏による研究報告会

開催日時：2024年12月19日(木) 16時30分～17時30分

開催場所：島根大学・寧夏大学国際共同研究所分室

概要：「西石見における椎茸半栽培時代の史的考察」と題して、江戸時代後期に九州・大分から、西石見へと椎茸の採取・半栽培技術を伝播させた担い手(豊後茸作)につ

いて、史料や先行研究をもとに分析した結果を示した。植菌による椎茸栽培の技術は明治以降であり、それ以前の半栽培とよばれる技術の担い手や伝播の事態についてはこれまでの研究では必ずしも明らかになっておらず、今後も実態を資料などに基づいて分析する必要性が議論された。寧夏回族自治区においても福建省からキノコ栽培の技術支援による地域づくりが進んでおり、今後の日中の比較検討などに向けて興味深い報告となった。

### 3) 大津裕貴氏による研究報告会

開催日時：2025年2月27日（木）16時30分～17時30分

開催場所：島根大学・寧夏大学国際共同研究所分室

概要：「出雲地域の農事調査報告書で目指された牛・山・田のつながり」と題して研究報告があった。『農事調査報告書』は、1910年前後の島根県下のいまでいう大字単位での各地の農産物生産高などが克明に記録された地域にかかわる一級の史料である。これらのデータから、木炭生産や放牧や肥料購入の実態とその関係性を読み解いて、当時の地域資源に利用状況と循環を明らかにしようとする意欲的な研究テーマが示された。査読誌投稿へ向けたブラッシュアップについて議論し、今後も検討を重ねていくことが確認された。

## III - 1 - 4 寧夏・銀川連絡会の開催

寧夏・銀川連絡会は、中国に関する国際的産学官連携事業を促進するため、中国寧夏回族自治区及び銀川市と交流事業を行う島根県、松江市、日本寧夏友好交流協会、及び島根大学の四者で関連事業等に関する情報共有を行うものである。

### 1) 2023年度第1回寧夏・銀川連絡会

開催日時：2023年7月27日（木）10時00分～11時30分

開催場所：島根大学法文学部1階138室

参加機関：

- ・松江市（観光部国際観光課）
- ・（特非）日本寧夏友好交流協会
- ・島根大学（島根大学・寧夏大学国際共同研究所、国際センター、企画部国際課）

議事概要：

一. 各機関による中国関連事業の概要紹介

#### 1. 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

- ・今年度の共同研究は、4つのテーマ（地域づくりと窒素循環、人口問題、気候変動と養殖、

食糧生産) で実施している。そのうち、食糧生産に関わるものは第 20 回日中国際学術セミナーのテーマとなっている。

- ・第 20 回日中国際学術セミナーは、県・自治区友好提携 30 周年記念事業の一環として、対面で開催予定である。その他、テーマ別ワークショップを通じて、若手研究者の育成を行う。

- ・30 周年記念事業または第 20 回日中国際学術セミナーにおいて、島根県内および寧夏自治区内の大学と、今後の連携強化に関する覚書を締結予定である。

## 2. 松江市

- ・銀川市からは、環境分野での交流のニーズがある。市で作成した啓発動画に中国語字幕を付与し、銀川市への提供を行った。

- ・10 月に銀川市訪問団を受入予定である(日程未確定)。訪問団には環境関係部署の職員が含まれており、環境関係の視察を予定している。併せて、次年度以降の本格交流を目標に打ち合わせを行う予定である。

- ・来年度の 20 周年記念事業としては、銀川市側が松江市を訪問予定である。

## 3. 日本寧夏友好交流協会

- ・寧夏外事弁からの要請により、9 月、10 月の 2 回、寧夏を訪問予定である。ただし、ビザが緩和されていないので、行くとすれば限られた人数となる。

- ・9 月の東京での PR 活動、およびクコビールの製造等は予定通り実施する。

- ・寧夏大学生の訪問受入は中止となった。ただし、寧夏外事弁は寧夏政府訪問団と同時期に寧夏学生訪問団の派遣を予定しているということなので、その受入で協力できるかもしれない。

## 二. 意見交換

日中国際学術セミナーでの報告、環境関係支援事業等について意見交換が行われた。

### 2) 2023 年度第 2 回寧夏・銀川連絡会

開催日時：2024 年 3 月 18 日(月) 10 時 00 分～11 時 30 分

開催場所：島根大学本部棟 1 階第一会議室

参加機関：

- ・島根県(環境生活部文化国際課)
- ・松江市(観光部国際観光課)
- ・(特非) 日本寧夏友好交流協会
- ・島根大学(島根大学・寧夏大学国際共同研究所、国際センター、企画部国際課)

議事概要：

一．各機関による中国関連事業の概要紹介

1. 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

令和 5 年度実施事業について：

・第 20 回国際学術セミナーを開催した（11 月）。その際、島根県農林水産部の武田管理監・大西スタッフに美味しまね認証についてご講演いただいた。

・西南大学と「人口再生力とコミュニティ」に関するスタートアップセミナーを実施した（6 月）。

・人民大学経済学院と邑南町調査を実施した（11 月）。

・西北農林科技大学と研究協議（9 月）およびさくらサイエンス事業（1 月）を実施した。

令和 6 年度事業計画について：

・4 月以降に第 5 次基本合意書を締結予定。合意書で定める共同研究テーマは、SDGs に関する課題解決に向けた学際的研究、既存産業のグリーン化を目指した技術および政策に関する研究、条件不利地域における環境保全と地域発展の両立に関する人文社会および自然科学研究、ならびに両分野が融合した学際的研究、言語学ならびに文学等の分野を含む国際地域研究の 4 点。

・10 月頃に、中国で第 21 回日中国際学術セミナーを開催予定。研究所設立 20 周年にあたる年でもあり、JICA 中国北京事務所からも協力依頼を受けている。

2. 島根県

令和 5 年度実施事業について：

・10 月中旬に介護分野で寧夏回族自治区民政庁 5 名の訪問団を受け入れ、支援制度、事業実態、施設状況等の視察を行った。

・10 月、友好提携 30 周年事業の一環として、寧夏自治区に副知事を団長とする公式訪問団を派遣した。

・11 月 11・12 日、寧夏自治区公式訪問団 7 名を受け入れ、記念植樹、記念式典（レセプション）等を実施した。

・いずれの事業でも、寧夏派遣の国際交流員が活躍し、滞りなく行事が実施された。企画段階ではいろいろあったが、折り合いがつかず、令和 5 年度の事業は上記のみとなった。

令和 6 年度事業計画について：

・令和 6 年度は吉林省との 30 周年事業が控えている。5 月 12 日頃に吉林省の民族音楽の楽団が来県する予定。訪問に合わせて行政のイベントも行われるだろう。同楽団は鳥取、韓国も訪問予定。

・行事の合間を縫って寧夏との交流を行うので制約が多い。

・令和 6 年度も、JET 派遣の交流員 2 名の配置希望を出している。吉林は内定済みだが、寧夏は難航している。

### 3. 松江市

令和 5 年度実施事業について：

- ・食品ロス削減に関する動画に中国語字幕を付け、銀川市に提供した。

令和 6 年度事業計画について：

- ・銀川市との友好都市提携 20 周年事業を実施する。順番では銀川市からの訪問を予定。松江市としては派遣ではなく受入を希望している。今後銀川市と協議して決定する。

### 4. 日本寧夏友好交流協会（新出副会長）

令和 5 年度実施事業について：

- ・10 月、自治区民政庁の島根訪問関係で介護施設訪問に同行した。
- ・10 月、友好提携 30 周年記念事業関係で寧夏を訪問した。
- ・11 月の島根・寧夏友好提携 30 周年記念事業に森井会長が出席した。その前日に寧夏出身者との食事会を実施した。
- ・寧夏出身者との交流会を開催した（松江：クコ料理実習 浜田：クコ料理実習 出雲：そば打ち体験）。出雲では初めての開催となった。出雲市の会員の他、医学部の留学生が参加した。
- ・島根県華僑華人連合の総会（定住中国人の集まり）に参加した。江津市在住の定住者が代表となり、社団法人として立ち上げを予定している。その関係で、大阪総領事館主催の 50 周年記念シンポジウムにも招待され、参加した。

令和 6 年度事業計画について：

- ・5 月に東京で交流会を開催予定。
- ・ビザ免除の見通しが立たない状況ではあるが、寧夏訪問は秋（9・10 月頃）を予定。

## 三. 意見交換

SDGs 関連事業、国際交流員の配置、環境関係事業等について意見交換が行われた。

### 3) 2024 年度第 1 回寧夏・銀川連絡会

開催日時：2024 年 3 月 18 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分

開催場所：島根大学本部棟 1 階第一会議室

参加機関：

- ・島根県（環境生活部文化国際課）
- ・松江市（観光部国際観光課）
- ・(特非) 日本寧夏友好交流協会
- ・島根大学（島根大学・寧夏大学国際共同研究所、国際センター、企画部国際課）
- ・島根県立大学（連携交流課）※オブザーバー参加
- ・浜田市（地域政策部定住関係人口推進課）※オブザーバー参加

## 議事概要：

### 一. 各機関による中国関連事業の概要紹介

#### 1. 日本寧夏友好交流協会

- ・3月に機関紙を発行し郵送で配付している。昨年度の実績は郵送資料を参考にしてほしい。
- ・2024年度の公式訪問は中止となった。ただ、有志会員による非公式訪問を10月頃の渡航を計画している。8月に案内を出すので、行ったことがない人はぜひ参加いただきたい。
- ・夏休み期間中の寧夏からの大学生の短期受入れは今年度も難しいだろう。
- ・県内での各種イベントの他、東京県人会でもPRを実施している。

#### 2. 島根県

- ・2023年度は、寧夏自治区との友好提携30周年にあたり相互訪問受入を実施した。
- ・2024年度は、青年の翼事業で、8/21～26に寧夏から随行含めて3名、吉林から随行含めて3名を受入予定。コロナ前はホームステイがあったが、今年度は宿泊はなく、昼間だけのホストファミリーを募集中。
- ・寧夏自治区から、寧夏で実施するキャンプ事業（7/26-31）の誘いがあった。ただし、案内から締切までの日数が少なかったことと、実施期間が大学の試験期間と重なっていたことから、島根県からの参加はなしとなった。
- ・吉林省とは今年度提携30周年を迎える。

#### 3. 松江市

- ・2024年度は銀川市との提携20周年を迎える。5年ごとに相互に派遣・受入を行っており、今年度は銀川市の訪問団を受入れる予定であったが、銀川市の予算の都合で来日が叶わないとの連絡を受けている。周年事業として何を実施するか、銀川市と調整中である。
- ・吉林市との提携も今年度25周年である。吉林市へは、7/22～25の日程で、市長・議長を含めた7名の訪問を予定している。
- ・コロナ前は、環境や医療分野での職員の相互派遣交流があったが、現在中断している。今後どのような交流を行うか、銀川市と協議したいと考えている。

#### 4. 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

- ・共同研究としては、寧夏大学とだけでなく、西部学術ネットワークという研究集団を形成し、中国西北部を研究フィールドとして学際的研究を行っている。
- ・2024度は研究所設立20周年にあたる。今年のセミナーは中国主管で、11月以降に寧夏で開催予定である。
- ・今年度から、「島根・寧夏五大学連携」として、関係5大学で連絡会を開催したいと考えている。詳細は未定。
- ・西北農林科技大学と共同で、11/21から島根県内で「六次産業化フォーラム」を行う予定である。フォーラムでの講演やエクスカージョンでの視察先の紹介等、協力をお願いしたい。

## 二. 日本寧夏友好交流協会より寧夏回族自治区の概要紹介

新出副会長より、「寧夏回族自治区入門（民間交流とキーパーソン）2024」（添付資料3）に基づいて紹介があった。

## 三. オブザーバー参加機関より情報共有

### 1. 島根県立大学連携交流課

- ・寧夏大学とは2004年10月に包括協定を締結しており、今年度20周年を迎える。
- ・五大学連携にも参加している寧夏医科大学（看護・栄養分野）および北方民族大学とは、今年度包括協定を結ぶ予定である。今後、交流県の入試区分を利用して、両大学からの留学生を受け入れたい。
- ・五大学連携については、学内での合意形成は済んでいるのでいつでもサイン可能である。
- ・交流県からの留学生は、日本語の能力が年々落ちているように感じる。日本語を学ぶ人の裾野が狭くなっているようだ。
- ・学生同士の交流にも力を入れたいと考えている。短期派遣プログラム（異文化理解）として、学生1名が1週間（8/27～9/3）寧夏を訪問する予定である（引率で坂田課長も同行）。また、短期受入プログラム（日本語・日本文化研修）として、寧夏から7名（医科大・北方民族大学・寧夏理工学院）を3週間受入予定である。
- ・寧夏友好交流協会には、学生派遣等に対する資金援助等がお願いできるとありがたい。

### 2. 浜田市

- ・浜田市は中国の3都市と友好交流提携をしており、その一つが寧夏自治区の石嘴山市。
- ・2023年度は、浜田市内でも寧夏に関連する交流会が行われたと聞いている。
- ・交流事業として浜田市にできることがあれば声をかけてほしい。

## 四. 意見交換

寧夏自治区のキャンプ事業、クレア補助金事業、周年事業等について意見交換が行われた。

### 4) 2024年度第2回寧夏・銀川連絡会

開催日時：2025年2月27日（月）13時30分～15時00分

開催場所：島根大学本部棟1階第一会議室

参加機関：

- ・島根県（環境生活部文化国際課）
- ・松江市（観光部国際観光課）
- ・(特非) 日本寧夏友好交流協会
- ・島根大学（島根大学・寧夏大学国際共同研究所、国際センター、企画部国際課）
- ・浜田市（地域政策部定住関係人口推進課）※オンライン

- ・島根県立大学（連携交流課）※オンライン

#### 議事概要：

#### 一．各機関による中国関連事業の概要紹介

##### 1. 島根県

- ・2024年度は交流の翼事業で寧夏自治区と吉林省の青年を島根に招いた。
- ・吉林省とは友好提携30周年にあたり、8月に島根県側から島根県議会副議長を代表とする計7名が吉林省を公式訪問し、吉林省政府等の表敬や島根写真展の開会式に出席した。また、11月には吉林省代表団4名を島根県に迎え、知事表敬および写真展の視察を行った。
- ・吉林代表団の来訪に合わせ、写真展を開催した。

#### 来年度の予定

- ・令和元年度以来、コロナ禍で派遣が途絶えていた青年の翼寧夏プログラムへの島根県内の青年の派遣を予定している。今年8月初旬実施予定、4-5月募集予定。
- ・北東アジア青年の翼 in 島根で、寧夏・吉林等友好自治体から青年を島根県に招へいする交流プログラムを実施予定。日本側の多くの青年に参加してもらいたいため、島根大学・県立大学にも協力をお願いしたい。
- ・次回の寧夏との周年事業は令和10年。来年度は公式訪問等の予定はないが、寧夏外事弁との連絡は密にとっているため、積極的に交流事業を実施したい。

##### 2. 松江市

- ・2024年度は銀川市との友好提携20周年を迎えた。銀川市から訪問団を迎える予定だったが先方の都合で叶わなかったため、11月に記念式典をオンラインで実施し、松江市長以下11名が参加した。銀川市からも市長他幹部が出席したほか、渡寧中の寧夏友好交流協会のメンバーが出席した。式典において、コロナで停止されている環境・農業分野の交流を今後5年間の交流活動として復活させたいという意見が出た。
- ・20周年の記念写真展をテルサで実施した。
- ・吉林市とは友好提携25周年を迎えた。松江市長・議長等5名で吉林市を訪問し、市長や吉林市幹部との直接協議を行い、スポーツ文化交流、観光、環境エネルギー等の方面での産業交流の実施を双方で確認した。また、吉林市主催により吉林市内で松江市の観光PRイベントが実施され、市長による松江市の紹介や松江市の製品の試食会を行った。

#### 来年度の予定

- ・銀川市・吉林市との交流事業はまだ調整中。日中国交正常化記念の中学生卓球交流大会が北京市で開催されるので、吉林市・銀川市とともに出場を検討している。
- ・杭州市との交流では、皆美が丘女子高校がオンラインで学生交流を予定している他、杭州市からの職員研修の受入を検討中である。

### 3. 浜田市

- ・石嘴市との友好提携 30 周年を迎えた。石嘴山市から訪日団を受け入れ、今後の交流について協議を行った他、市内の視察を行った。
- ・来年度の予定はまだ決定していない。

### 4. 日本寧夏友好交流協会

- ・交流協会では、主な行事として訪問団の派遣・受入、国内での交流会、機関誌の発行を行っている。
- ・中国入国のビザ免除の再開が遅れたため、公式訪問団は派遣できなかったが、少人数での訪問は昨年から続けている。11 月には銀川市の記念式典のタイミングで角ともこ島根県議会議員とともに訪寧した。
- ・日本国内での交流会として、東京、松江市での交流会を開催した。
- ・県内での交流会の周知や機関誌への記事執筆等に対してご協力いただき感謝している。

#### 来年度の予定

- ・コロナ禍で中断している公式訪問を再開したい。10 月上旬を予定。ぜひ訪問団への参加を検討していただきたい。寧夏からの訪問団受入もまだ具体的な実施予定はないが、個人的な訪問は増えてくると考えられる。
- ・交流会、機関誌については、例年同様の実施を計画している。

### 5. 島根県立大学

- ・7 月に実施した 3 週間の短期受入プログラムに寧夏から 6 名の学生が参加した。
- ・8 月末-9 月に教員等とともに寧夏理工学院と北方民族大学を訪問し交流した。また、寧夏を訪問する異文化研修プログラムを初めて実施し、学生 1 名が参加した。
- ・副校長を団長とする寧夏理工学院の学生・教職員計 17 名が 1 月 12-17 日まで来訪した。交流イベントを行うとともに、1 月 15 日には包括的連携協定と学生交流協定（受入のみ）を締結した。学生受入は来年度から順次実施予定。

#### 来年度の予定

- ・山下学長が寧夏訪問を希望している。年度明けから調整を始める。
- ・今年度同様、8 月末-9 月に寧夏研修を開催予定。

### 6. 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

- ・4 月に寧夏大学との基本合意書を更新した。
- ・8 月に韓国から調査団を受け入れた。日中だけでなく、日中韓というより広い枠組みにおける共同研究を検討していきたい。
- ・西北農林科技大学との共催で、11 月に六次産業化国際フォーラムを開催した。島根県からも六次産業化に向けた取り組みについて講演をいただいた。また、開催に先立ち県内外における視察を行った。

- ・12月に日本側関係者7名が寧夏を訪問し、寧夏大学主催の第21回国際学術セミナーに参加した。また、クコ等の特産産業に関する現地調査を行った。
- ・3月には陝西省の安康学院を訪問し、交流協定の締結に向けた協議を行う予定。
- ・中国人留学生会の協力を得て中国サロンを実施し、日本人学生と中国人学生の交流の機会を作った。

#### 来年度の予定

- ・研究交流事業として4つのテーマを決め、中国側のCP大学とともに共同研究を実施していく予定である。また、各テーマの下に小規模セミナーや研究会を開催し、研究交流を推進するとともに、人材育成を推進する予定。
- ・第22回日中国際学術セミナーを日本側の主管で開催予定。
- ・学生交流である客員・兼任研究員とともに研究会を実施予定。
- ・‘島根-寧夏’五大学連携の調印をし、大学連携を正式に発足させ、セミナー等の場で情報連絡会を開催し、連携強化に努めたい。

## 二. 意見交換

交流の翼事業、五大学連携、石嘴山市訪問団等について意見交換が行われた。

## Ⅲ - 2 2023・2024 年度その他の交流記録

### Ⅲ - 2 - 1 中国サロンの実施

2023・2024 年度も継続して、共同研究所と島根大学国際センターの共催により中国サロンを開催した。このイベントは、日本人学生と留学生の対面での交流機会を提供すると同時に、身近なテーマで中国文化を紹介することにより、国際交流活動参加学生の裾野を広げることを目的とするものである。毎回中国の 1 地域をテーマとして選び、その地域出身の留学生に依頼して文化紹介および大学紹介を行った。各回を担当する留学生は、島根大学中国留学生学友会を通じて紹介を受けた。

#### ○概要

主催：島根大学・寧夏大学国際共同研究所，国際センター

形式：対面および zoom によるオンラインのハイブリッド形式

各回の流れ：

- ①担当留学生による地域紹介（30 分）
- ②質疑応答、意見交換（30 分）

2023・2024 年度の実施状況：

開催日	テーマ	参加人数
1 2023 年 5 月 29 日（月）	安徽省	学生 13、教職員 5
2 2023 年 6 月 29 日（月）	湖南省	学生 13、教職員 4
3 2023 年 7 月 31 日（月）	陝西省	学生 8、教職員 2
4 2023 年 11 月 28 日（火）	湖北省	学生 21、教職員 3
5 2023 年 12 月 26 日（火）	吉林省	学生 11、教職員 3
6 2024 年 4 月 25 日（月）	山西省	学生 10、教職員 2

#### ○写真



留学生による紹介



会場の様子

### Ⅲ - 3 留学生招致に係る活動

#### Ⅲ - 3 - 1 指定校推薦留学制度説明会の実施

寧夏大学で日本語を勉強する学生に対して、指定校推薦留学制度に関する説明会をオンラインで開催した。島根大学人間社会科学研究科と寧夏大学外国語学院は指定校推薦制度に関する覚書を交わしており、寧夏大学外国語学院を卒業した学生は、当該制度を利用して人間社会科学研究科の修士課程に留学することができる。説明会は、寧夏大学外国語学院東語系日本語専攻の3～4年生を対象に行った。

現在、寧夏大学には日本語を母語とする日本語教員がいないため、学生たちが日本語に触れる機会を作りたいという寧夏大学側の希望で、説明会は日本語を使用して行われた。このような説明会だけでなく、学生が参加可能な交流活動を積極的に実施し、日本語および日本に対する興味を持ち続けてもらえるような取り組みが必要である。

#### ○概要

日時：2023年度 12月5日（火）

2024年度 11月26日（火）

形式：オンライン形式（zoom）

参加人数：2023年度 22名、2024年度 17名

内容：

- ①概要、提出書類等に関する説明
- ②質疑応答

#### Ⅲ - 3 - 2 留学支援

日本留学希望者に対して、相談対応（留学方法に関する説明、資料の配付等）や派遣支援（指導教官とのマッチング、書類作成指導等）を行った。

### Ⅲ - 4 資料・情報の提供

#### Ⅲ - 4 - 1 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。
- ・寧夏情報・テキストマイニング版の掲載。

中国人民網日本語版で発表される全ての記事を対象に、月毎に KH Coder 3 (<https://kncoder.net/>)を使用したテキストマイニング(頻出語リストの作成、対応分析、関連語検索、共起ネットワーク図の作成)を行い、『寧夏情報・テキストマイニング版』として情報提供を行った。

## IV 研究所の組織

### ○2023年度の運営体制

役職	日本側	中国側
顧問	保母武彦 (島根大学名誉教授, 元島根大学副学長)	陳育寧 (前寧夏大学長)
所長	一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授)	趙曉佳 (寧夏大学教授)
副所長	関耕平 (島根大学法文学部教授)	朱海燕 (寧夏大学副教授)
	松本一郎 (島根大学教育学研究科教授)	
研究員	田中奈緒美	蔵志勇 (寧夏大学副教授) 羅進軍 (寧夏大学教授) 李楊 (寧夏大学助教)

### ○兼任研究員名簿

氏名	所属	研究分野
宮本 恭子	島根大学 法経学科経済学分野	福祉経済、社会保障
藤本 晴久	島根大学 法経学科経済学分野	地域経済、農業経済
桑原 智之	島根大学 生物資源科学部	水環境保全学
保永 展利	島根大学 生物資源科学部	農業経済学、地域経済学

○客員研究員名簿

氏名	所属	研究分野
鄭 蔚	中国・南開大学日本研究院	農業経済学, 金融学
周 建中	日本・東京成徳大学人文学部	生物環境科学, 民族歴史文化, 人口と教育問題
高橋 健太郎	日本・駒沢大学文学部地理学科	人文地理学
胡 霞	中国・中国人民大学经济学院	発展経済学, 農業経済学
富野 暉一郎	日本・福知山公立大学副学長, 龍谷大学名誉教授	市民自治, 調和型連動社会, 地域環境政策
胡 勇	中国・北京農学院人文社会科学部	社会学, 社会福祉学
張 偉	中国・北京工商大学经济学院	マイクロ金融, 発展金融, 中小企業融資, 東アジア金融協力
大西 広	日本・慶應義塾大学経済学部	統計学, 経済システム論, 中国経済数量分析
氏川 恵次	日本・横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科	経済政策・環境経済
谷口 憲治	日本・島根大学名誉教授	農業経済
劉 海濤	中国・大連東軟信息学院	農村金融
栗畑 恭介	日本・九州国際大学現代ビジネス学部	農村社会と農業の持続可能性
伊藤 勝久	日本・島根大学名誉教授	森林経済学
大津 裕貴	日本・ダムの見える牧場	森林学
小池 浩一郎	日本・島根大学名誉教授	林学
周 艶	中国・北方民族大学	経済学
青 晴海	日本・北海道文教大学国際学部	国際協力
井上 憲一	日本・九州大学農学研究院	農業経済学
面代 真樹	樟舎	民俗学, 日本思想

○2024 年度の運営体制

役 職	日本側	中国側
顧 問	保 母 武 彦 (島根大学名誉教授, 元島根大学副学長)	陳 育 寧 (前寧夏大学長)
所 長	一 戸 俊 義 (島根大学生物資源科学部教授)	劉 艷 暉 (寧夏大学教授)
副所長	関 耕 平 (島根大学法文学部教授)	金 忠 傑 (寧夏大学教授)
	松 本 一 郎 (島根大学教育学研究科教授)	
研究員	田中 奈緒美	蔵 志 勇 (寧夏大学副教授) 羅 進 軍 (寧夏大学教授) 李 楊 (寧夏大学助教)

○兼任研究員名簿

氏 名	所 属	研究分野
宮本 恭子	島根大学 法経学科経済学分野	福祉経済、社会保障
藤本 晴久	島根大学 法経学科経済学分野	地域経済、農業経済
保永 展利	島根大学 生物資源科学部	農業経済学、地域経済学

○客員研究員名簿

氏名	所属	研究分野
鄭 蔚	中国・南開大学日本研究院	農業経済学, 金融学
周 建中	日本・東京成徳大学人文学部	生物環境科学, 民族歴史文化, 人口と教育問題
高橋 健太郎	日本・駒沢大学文学部地理学科	人文地理学
胡 霞	中国・中国人民大学经济学院	発展経済学, 農業経済学
富野 暉一郎	日本・福知山公立大学副学長, 龍谷大学名誉教授	市民自治, 調和型運動社会, 地域環境政策
胡 勇	中国・北京農学院人文社会科学部	社会学, 社会福祉学
張 偉	中国・北京工商大学经济学院	ミクロ金融, 発展金融, 中小企業融資, 東アジア金融協力
大西 広	日本・慶應義塾大学経済学部	統計学, 経済システム論, 中国経済数量分析
氏川 恵次	日本・横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科	経済政策・環境経済
谷口 憲治	日本・島根大学名誉教授	農業経済
劉 海濤	中国・大連東軟信息学院	農村金融
栗畑 恭介	日本・九州国際大学現代ビジネス学部	農村社会と農業の持続可能性
伊藤 勝久	日本・島根大学名誉教授	森林経済学
大津 裕貴	日本・ダムの見える牧場	森林学
小池 浩一郎	日本・島根大学名誉教授	林学
周 艶	中国・北方民族大学	経済学
青 晴海	日本・北海道文教大学国際学部	国際協力
井上 憲一	日本・九州大学農学研究院	農業経済学
面代 真樹	樟舎	民俗学, 日本思想
具 滋仁	韓国・マウル研究所イルソゴンド	農村経済
小井川 広志	日本・関西大学商学部	開発経済学, 多国籍企業論

## V 資料その他

### V-1 国際共同研究所ホームページ・トピックス

#### ■ホームページ・トピックス（2023年度）

日付	タイトル	カテゴリ
		ALL <input type="button" value="▼"/>
2024年3月29日	国際共同研究所の年報 第16号（2022年度版）を発行しました	研究成果・刊行物
2024年2月6日	さくらサイエンスプログラムによる西北農林科技大学訪問団の研修を実施しました	人材育成
2024年1月24日	中国・西北農林科技大学の訪問団が島根大学を訪問しました	人材育成
2023年12月28日	寧夏大学日本語科の学生に対して留学説明会を行いました	セミナー・イベント
2023年12月28日	第15回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2023年12月18日	「第15回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2023年12月11日	第14回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2023年12月11日	日中共同研究に係る邑南町現地調査を実施しました	研究事業
2023年11月27日	出雲・雲南地域でエクスカージョンを行いました	セミナー・イベント
2023年11月27日	第20回日中国際学術セミナーを開催しました	セミナー・イベント
2023年11月22日	「第14回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2023年11月7日	2023年 第20回日中国際学術セミナーのプログラムについて	セミナー・イベント
2023年10月16日	寧夏回族自治区・陝西省で現地調査を実施しました	研究事業
2023年10月16日	保母顧問が第十回車河国際有機農業フォーラムで講演しました	セミナー・イベント
2023年10月4日	2023年 第20回日中国際学術セミナー開催及び参加者募集のお知らせ	セミナー・イベント
2023年9月19日	寧夏情報・テキストマイニング版（202305）を掲載しました	情報の発信
2023年8月3日	第13回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2023年7月26日	「第13回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2023年7月26日	寧夏情報・テキストマイニング版（202304）を掲載しました	情報の発信
2023年7月3日	第12回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2023年7月3日	中国西南大学の田阡教授と共同研究のスタートアップセミナーを行いました	セミナー・イベント
2023年6月9日	「第12回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2023年6月5日	第11回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2023年5月26日	寧夏情報・テキストマイニング版（202303）を掲載しました	情報の発信
2023年5月11日	「第11回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2023年5月8日	開副所長が中国人民大学経済学院の国際シンポジウムで報告しました	セミナー・イベント

■ ホームページ・トピックス (2024 年度)

日付	タイトル	カテゴリ
		ALL ▼
2025年3月21日	客員研究員による研究報告会（第二回）を行いました	研究事業
2025年2月5日	客員研究員による研究報告会を行いました	研究事業
2024年12月26日	第21回中日学術セミナーを開催しました	セミナー・イベント
2024年12月26日	寧夏回族自治区で現地視察を実施しました	研究事業
2024年12月26日	関西大学小井川広志教授による寧夏調査報告会を行いました	研究事業
2024年12月26日	寧夏大学日本語科の学生に対して留学説明会を行いました	人材育成
2024年11月19日	第4回六次産業化国際フォーラムを開催しました	セミナー・イベント
2024年10月24日	第4回六次産業化国際フォーラムの開催について	セミナー・イベント
2024年10月22日	第21回 中日国際学術セミナーの開催について	セミナー・イベント
2024年9月6日	西北農林科技大学を訪問しました	研究事業
2024年7月26日	寧夏情報・テキストマイニング版（202405, 202406）を掲載しました	情報の発信
2024年7月26日	韓国農村邑面自治研修団を受け入れました	人材育成
2024年6月20日	島根大学・寧夏大学国際共同研究所第5次基本合意書（2024）を締結しました	その他
2024年5月16日	寧夏情報・テキストマイニング版（202404）を掲載しました	情報の発信
2024年5月16日	寧夏情報・テキストマイニング版（202401）を掲載しました	情報の発信
2024年5月14日	第16回中国サロンを開催しました	セミナー・イベント
2024年4月12日	「第16回中国サロン」開催のお知らせ	セミナー・イベント
2024年4月5日	寧夏情報・テキストマイニング版（202403）を掲載しました	情報の発信
2024年4月5日	寧夏情報・テキストマイニング版（202402）を掲載しました	情報の発信

※詳細は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/>

## V-2 新聞記事

V-2-1 2024年1月25日(木) 山陰中央新報

# 中国学生 島根の農業学ぶ

【松江】島根大と交流協定を結ぶ中国の西北農林科  
技大の学生が24日、農業と  
畜産の連携に取り組む松江  
市下佐陀町のライスフィー  
ルドを訪れ、地域資源の活  
用方法を学んだ。

「松江」島根大と交流協  
定を結ぶ中国の西北農林科  
技大の学生が24日、農業と  
畜産の連携に取り組む松江  
市下佐陀町のライスフィー  
ルドを訪れ、地域資源の活  
用方法を学んだ。

農業経済学を専攻する修  
士、博士課程などの9人で、  
用実態や製造過程などを学  
んだ。

ライスフィールドの吉岡  
雅裕社長(65)は高齢化で担  
い手が不足する地域の農地  
を預かり、取引先の需要に  
合わせて米を栽培するとい  
った業務内容を紹介。同社  
は栽培した稲を飼料用に供  
給する代わりに堆肥を受け  
取る「耕畜連携」で日本農  
業賞の個別経営の部で大賞  
を受賞した。農地を集約し  
てコストを削減し、高騰す  
る飼料を県内の牧場などに  
安価で提供できると解説し  
た。

学生は米の乾燥調整施設  
も見学し、もみ殻を牧場の  
敷料として供給するといっ  
た資源の有効活用方法も学  
んだ。

博士課程1年の談徳君さ  
ん(29)は、中国では出稼ぎ  
に出ている若い世代が農村  
に帰ってきたらず、担い手不  
足の課題を抱えると推測。  
「地域で土地を集約し、さ  
らに資源を循環している点  
は中国も見習うべきだ」と  
話した。(小引久実)



吉岡雅裕社長(右)から、米の出荷までの流れを教わる  
中国の大学院生ら—松江市下佐陀町、ライスフィールド

## 韓国から地域視察



地元産の野菜などを販売する市場を見学する韓国の視察団＝安来市広瀬町梶福留「えーひだ市場」

過疎地域の課題解決を学 農村で地域づくりに取り組む  
ぼつと、韓国の大学教授や むりーターら26人がこのほ

ど、島根県の安来、雲南両市や邑南町を視察した。

韓国では首都ソウルへの人口一極集中により農村の過疎化が深刻。地域おこしに取り組み島根県の事例を参考にしようと、5日間の日程で地域の活動拠点の交流センターなどを見学した。中山間地域の課題を研究する島根大・寧夏大国際共同研究所が視察を受け入れた。

県の「小さな拠点づくり」モデル事業に取り組む安来市広瀬町の比田地区などを視察。地域活性化プロジェクトを実行する地域おこし会社「えーひだカンパニー」（安来市広瀬町梶福留）の取り組みについて聞いた。地域の足となるデマンド交通や地元産・比田米のブ

ランド化など、自立した地域づくりのための自治機能と、財源を生み出す生産機能の両輪を意識した例が紹介された。視察団はメモを取りながら真剣に聞いた。地元産の野菜や食品を販売する市場も訪れ、地域の魅力を生かして活性化させる方法も学んだ。

地方行政を専門とする大  
学教授の黄宗圭視察団長  
(6)は「民間企業が生活サ  
ービスを直接提供している  
ところに感動した。この方  
法は韓国の小さい村でも生  
かせそうだ」と話した。  
(小引久実)

紙面編集・加藤 要

## V-3 事業計画

### V-3-1 2023年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

#### 1. 共同研究・研究交流事業

- (1) 「持続可能な地域づくりと窒素循環の日中比較研究」(中国側 CP: 寧夏大学、西北農林科技大学、中国人民大学、蘭州大学) (SDGs9, 15)  
目標: 学会報告 1 題(令和 5 年日本環境学会大会)、審査誌(人間と環境) 投稿 1 報、外部資金申請 1 件
- (2) 「人口再生産力とコミュニティ」(中国側 CP: 西南大学、令和 5 年度倉田奨励金助成採択課題(代表: 関副所長)) (SDGs3, 10, 11)  
目標: 招へいセミナー実施、外部資金申請 2 件
- (3) 「中国内陸部の湖羊乳生産成績に及ぼす飼料と外気温の影響」(中国側 CP: 西北農林科技大学、蘭州大学) (SDGs2, 12)  
目標: 審査誌(Small Ruminant Research) 投稿 1 編、外部資金申請 1 件
- (4) 「食糧生産と食の安全に関する国際共同研究」(中国側 CP: 寧夏大学、人民大学、中国農業大学、西北農林科技大学) (SDGs2, 9, 13, 15, 17)  
目標: 外部資金申請 1 件
- (5) 新たな分野の共同研究開始に向けて
  - ① 日本国内における国際共同研究のカウンターパートの探査に力点を置き、研究所メンバー所属学会および中国に関連する学会でのネットワークの形成を追求する
  - ② 中国側との地質学および教育学分野に関する共同研究の準備に着手する
  - ③ 客員研究員および兼任研究員が参画する新たな研究プロジェクトの立ち上げ
  - ④ 中国側研究者の招へいセミナーの実施および調査の支援・受け入れ
- (6) 科研費、民間助成への申請を行う  
上記の共同研究について、申請スケジュールを作成し、計画的に取り組む

#### 2. 学術交流事業の実施

- (1) 日中国際学術セミナーの実施  
県と自治区交流 30 周年記念事業の一環として第 20 回日中国際学術セミナーの実施(日本側主管)について県と協議する
- (2) 専門分野ごとのセミナーの実施
  - ① 西部学術ネットワーク参加校を対象とした学際的なワークショップを行う  
目標: 西南大学歴史文化学院と 1 回、人民大学経済学院と 1 回、西北農林科技大学経済管理学院と 1 回
  - ② 若手研究者育成のためのワークショップを行う  
目標: 西北農林科技大学経済管理学院と 1 回、蘭州大学草地農業科技学院・西北農林科技大学動物科技学院と 1 回

### 3. 若手研究者の育成

- (1) 共同研究、学術交流事業を通じた大学院生等に対する学習、研修機会等の提供
- (2) さくらサイエンスの実施（中国側 CP：西北農林科技大学経済管理学院）

### 4. 国際的産学官連携事業の実施に向けて

- (1) 県・自治区交流 30 周年式典において、県・自治区・島根大学・島根県立大学・寧夏大学・北方民族大学・寧夏理工大学との間で、今後の国際的産官学連携による共同研究および人材育成についての覚書を締結することにむけて、各方面との調整を行う。
- (2) 島根県、松江市、寧夏 NPO、日本側関連機関との連携と意見交換を行う
- (3) 寧夏回族自治区政府、中日友好協会等、中国側関連機関との意見交換により、今後の研究シーズを発掘する

### 5. 研究ネットワークの拡充

- (1) 客員・兼任研究員の増員による研究分野の拡大（特に人文社会学分野の拡充）
- (2) 日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- (3) 専門分野ごとのセミナーを通じた人的ネットワークの拡充

### 6. 研究所の情報発信

- (1) 中国研究に関する成果の公表（論文、学会発表）
- (2) 研究所年報の発行（第 16 号、2022 年度版）
- (3) 研究資料等の提供
  - ・研究所 HP での情報発信（寧夏情報、トピックス記事作成等）
  - ・研究所 SNS での情報発信（インスタグラム）
  - ・ニューズレターの発行
- (4) 希平会への出席等による在中国日本関係部門との情報交換、人脈強化

### 7. 教育・学生交流への協力

- (1) 島根大学学生に対する学習・交流機会の提供
  - ・中国サロンの実施（年 5 回程度）
  - ・島根大学国際センター、法文学部等が実施する中国学生研修企画への協力
- (2) 寧夏大学日本語学科等に対する協力
  - ・留学関連の情報提供

### 8. 研究所の運営

- (1) 運営委員会の開催
  - ・日中学術セミナーの実施、および事業計画等、双方で検討が必要な項目について協議する
- (2) 小委員会・対応委員会の開催

## V - 3 - 2 2024 年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

### 1. 共同研究・研究交流事業

- (1) 「持続可能な地域づくりと窒素循環の日中比較研究」(中国側カウンターパート: 寧夏大学、西北農林科技大学、中国人民大学、蘭州大学) (SDGs 9, 15)  
目標: 学会報告 1 題、審査誌投稿 1 報、科研費申請 1 件
- (2) 「中国内陸部の家畜生産、農村の形成に関する学際的研究」(中国側カウンターパート: 寧夏大学、蘭州大学、西北農林科技大学) (SDGs 2, 12)  
目標: 審査誌投稿 2 報、外部資金申請 1 件
- (3) 「日中両国の環境保全型農業生産と食の安全に関する国際共同研究」(中国側カウンターパート: 寧夏大学、人民大学、中国農業大学、西北農林科技大学) (SDGs 2, 9, 13, 15, 17)  
目標: 外部資金申請 1 件
- (4) 「人口再生産力とコミュニティ」(中国側カウンターパート: 雲南民族大学) (SDGs 3, 10, 11)  
目標: 外部資金申請 1 件
- (5) 新たな分野の共同研究開始に向けて
  - ① 日本国内における国際共同研究のカウンターパートの探査に力点を置き、研究所メンバー所属学会および中国に関連する学会でのネットワークの形成を追求する
  - ② 中国側との地質学および教育学分野に関する共同研究の準備に着手する
  - ③ 客員研究員および兼任研究員が参画する新たな研究プロジェクトの立ち上げ
  - ④ 中国側研究者の招へいセミナーの実施および調査の支援・受け入れ
- (6) 科研費、民間助成への申請を行う  
上記の共同研究について、申請スケジュールを作成し、計画的に取り組む

### 2. 学術交流事業の実施

- (1) 日中国際学術セミナーの実施  
第 21 回日中国際学術セミナーの実施 (中国側主管)
- (2) 専門分野ごとのセミナーの実施
  - ① 西部学術ネットワーク参加校を対象とした学際的なワークショップを行う  
目標: 人民大学経済学院と 1 回、西北農林科技大学経済管理学院と 1 回
  - ② 若手研究者育成のためのワークショップを行う  
目標: 西北農林科技大学経済管理学院と 1 回、蘭州大学草地農業科技学院・西北農林科技大学動物科技学院・鳥取連大の留学生と 4 回

### 3. 若手研究者の育成

大学院生等に対し、上記「1. 共同研究」「2. 学術交流事業」を通じて、学習、研修機会等の提供を行う

#### 4. 国際的産学官連携事業の実施に向けて

- (1) 島根県、松江市、寧夏 NPO、日本側関連機関との連携と意見交換を行う
- (2) 寧夏回族自治区政府、中日友好協会等、中国側関連機関との意見交換により、今後の研究シーズを発掘する

#### 5. 研究ネットワークの拡充

- (1) 「‘島根-寧夏’五大学連携」による情報連絡会の開催
- (2) 客員・兼任研究員の増員による研究分野の拡大
- (3) 日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- (4) 専門分野ごとのセミナーを通じた人的ネットワークの拡充

#### 6. 研究所の情報発信

- (1) 中国研究に関する成果の公表（論文、学会発表）
- (2) 研究所年報の発行（第 17 号、2023 年度版）
- (3) 研究資料等の提供
  - ・ 研究所 HP での情報発信（寧夏情報、トピックス記事作成等）
  - ・ 研究所 SNS での情報発信（インスタグラム）
  - ・ ニュースレターの発行
- (4) 希平会への出席等による在中国日本関係部門との情報交換、人脈強化

#### 7. 教育・学生交流への協力

- (1) 島根大学学生に対する学習・交流機会の提供
  - ・ 中国サロンの実施（年 5 回程度）
  - ・ 島根大学国際センター、法文学部等が実施する中国学生研修企画への協力
- (2) 寧夏大学日本語学科等に対する協力
  - ・ 留学関連の情報提供

#### 8. 研究所の運営

- (1) 運営委員会の開催
  - ・ 日中学術セミナーの実施、および事業計画等、双方で検討が必要な項目について協議する
- (2) 小委員会・対応委員会の開催

## V-4 国際共同研究所第5次基本合意書

(写し)

### 島根大学・寧夏大学国際共同研究所第5次基本合意書

2004年に設立された島根大学・寧夏大学国際共同研究所（以下、「研究所」という）は、時代状況に対応しながら発展し、早くも20周年を迎えようとしている。両校の科学研究の規模と分野は拡大し、学術交流、学生交流も盛んになってきた。本研究所の共同研究を通じて、経済、社会、環境の持続可能な発展等の分野において多くの成果が生まれた。また、人材育成面でも実績を上げ、大学間国際交流の新たな様式を築き、充実させてきた。今後は新たな研究分野への拡張が期待されている。

今後の両大学の学術交流、共同研究、さらに学生交流を一層強化し、諸業務を推進するために、島根大学・寧夏大学国際共同研究所第5次基本合意書（2024年度～2028年度）を取り交わす。

#### 一 研究課題

1. 持続可能な開発目標（SDGs）に関する課題解決に向けた学際的研究
2. 既存産業のグリーン化（Green Transformation）を目指した技術および政策に関する研究
3. 条件不利地域における環境保全と地域発展の両立に関する人文社会および自然科学研究、ならびに両分野が融合した学際的研究
4. 言語学ならびに文学等の分野を含む日中両国に関する国際地域研究

#### 二 業務

1. 共同研究：両大学の研究者を中心とした国際的共同研究を一層促進するとともに、関連分野の客員研究員を充実する。
2. 社会貢献：喫緊の課題解決型プロジェクトを学際的に推進し、また研究成果を実際に地域で実践する実装化を進める。
3. 人材育成：両大学の教職員・学生に対して、相互研修や交換留学等を通じて、国際性の修得機会を提供する。
4. 学術交流：両大学の研究者交流を一層推進するとともに、定期的国際セミナー、加えて課題解決型ワークショップを開催する。
5. 成果普及：研究成果の普及と両大学の一層の理解促進のために、研究に資する資料を整備し、発信内容を質的に向上し、多様なメディアによる情報発信を行う。
6. 交流・研究の基盤整備：学術交流・学生交流を円滑に進めるための諸制度の改善を行い、共同研究を推進するための日中両国の外部研究資金確保に努める。
7. その他：両大学が共に必要と認める業務を行う。

三 研究所の組織および運営体制

研究所の組織および運営体制については、「島根大学・寧夏大学国際共同研究所管理規則」(2006年3月28日制定)に基づき、円滑な運営に努めるものとする。

四 合意書の発効

この合意書は両大学の学長が署名を行った日から効力を生じるものとし、5年間有効とする。

この合意書は、等しい正文である日本語と中国語により各2通を作成し、相互に各1通を保管するものとする。

2024年6月17日

大谷 浩

島根大学 学長 大谷 浩

2024年06月04日

彭志科

寧夏大学 校長 彭志科



---

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第 17 号 2023・2024 年度

2025 年 8 月 1 日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
(所長 一戸俊義)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学 A 区  
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学内  
TEL 0852-32-6617 (研究所分室), 32-9735 (国際課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

---